職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年	月日	校長	名			所在地			
専門学校日本鉄道 ツビジネスカレッ		平成9年10	月1日	吉野:	充利	(住所) 東京)-8565 京都墨田区太平2-	-3-2			
設置者名		設立認可年	月日	代表者	者名	(電話) 03-	-3624-5444	所在地			
学校法人立志	:舎	平成10年10]30日	塚原 ·	一功)-8565 京都墨田区錦糸1-	-2-1			
分野		認定課程名		認定学科名		(電話) 03-	-3624-5441 認定年度	高度専門士認定	?在度	職業宝辉博	門課程認定年度
文化・教養			7	スポーツ学科	4		2000)年度		-+12		6(2014)年度
	教育基本流的とする。	法および学校教育法	L.	あるよう	-	スおよび一般	 数養に関する正しい	知識を身につけ、日々	本経済の発	展に貢献でき	る人材の育成を目
学科の特徴(主な 教育内容、取得可 能な資格 等)	健康運動	実践指導者 リテール	マーケティング	グ検定 JATI	トレーニング扌	指導者 日本源	漢字能力検定 ビジ	ネス能力検定ジョブ/	パス マイクロ	ロソフトオフィス	ススペシャリスト等
修業年限	昼夜	全課程の修了に必単	要な総授業時 1位数	数又は総	講義		演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれ かに記入	•	単位時間単位	500 単	単位時間	800 単位時間 一 単位	945 単位時間		単位時間単位	一 単位時間一 単位
生徒総定員	生徒乳	生員(A) 留学生	上数(生徒実員の		留学生割合		中退率	— 半位		- 単位	一 单位
180 人	32	Д	0 .		0 %	6	0 %				
100 11	■卒業者		:	14		<u> </u>	· · ·				
			:	13	,	<u> </u>					
	■就職者 ■地元就	数(E) 職者数(F)		13 13		<u> </u>					
	■就職率	(E/D)		100	9	%					
	■就職者	に占める地元就職者	の割合 (F/E)) 100	n	%					
	■卒業者	に占める就職者の割	合 (E/C)		9	70					
				93	9	<u>%</u>					
就職等の状況	■進学者 ■その他			U							
	(令和		者に関する令和	和7年5月1日時,	点の情報)						
	■主な就	職先、業界等									
	(令和6年度	卒業生)									
	アディダフ	卒業生) スジャパン 総合体	育研究所 クラ	ラシオン リラ	ラックス 東急	急レクリエーシ	ノョン 野村不動産	ライフ&スポーツ ジ	スクールパ	パートナー フ	ァミリースボーツ
	アディダン クラブ あ	(卒業生) スジャパン 総合体で さひ 等		ラシオン リラ	ラックス 東急	急レクリエーシ		ライフ&スポーツ :	スクールパ	パートナー フ	ァミリースボーツ
	アディダス クラブ あ ■民間の	卒業生) スジャパン 総合体	三者評価:	ラシオン リラ	ラックス 東急	急レクリエーシ	ノョン 野村不動産 無	ライフ&スポーツ ジ	スクールパ	パートナー フ	ァミリースボーツ
	アディダス クラブ あ ■民間の ※有の場合	卒業生) スジャパン 総合体 らさひ 等 評価機関等から第 、例えば以下について	三者評価:				無		スクールパ	パートナー フ	ァミリースポーツ
第三者による	アディダス クラブ あ ■民間の ※有の場合	卒業生) マジャパン 総合体 さひ 等 評価機関等から第	三者評価:		ラックス 東急 受審年月: -		無 評·	ライフ&スポーツ ; 価結果を掲載した ームページURL	スクールパ	パートナー フ [・]	ァミリースボーツ
第三者による 学校評価	アディダス クラブ あ ■民間の ※有の場合	卒業生) スジャパン 総合体 らさひ 等 評価機関等から第 、例えば以下について	三者評価:				無 評·	価結果を掲載した	スクールパ	パートナー フ	ァミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科の	アディダン クラブ あ ■民間の ※有の場合	卒業生) スジャパン 総合体i さひ 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: —	三者評価: 任意記載				無 評·	価結果を掲載した	スクールパ	パートナー フ	ァミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の	アディダン クラブ あ ■民間の ※有の場合	卒業生) スジャパン 総合体 らさひ 等 評価機関等から第 、例えば以下について	三者評価: 任意記載				無 評·	価結果を掲載した	スクールパ	パートナー フ [・]	ァミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一	三者評価: 任意記載				無 評·	価結果を掲載した	スクールパ	゚ートナー フ	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体i さひ 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21.a 立時間による算定)	三者評価: 任意記載				無 評·	価結果を掲載した	_		アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21.a な時間による算定) 総授業時数	三者評価: 任意記載 nc.jp/		受審年月: -	_	無 評·	価結果を掲載した	2, 245	単位時間	ァミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21.a な時間による算定) 総授業時数 うち企業	三者評価: 任意記載 nc.jp/	実験・実習・	受審年月: - 実技の授業時	_	無 評·	価結果を掲載した	2, 245 105	単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21.a な時間による算定) 総授業時数 うち企業	三者評価: 任意記載 nc.jp/	実験・実習・	受審年月: - 実技の授業時	_	無 評·	価結果を掲載した	2, 245 105	単位時間	ァミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 nc.jp/	実験・実習・	受審年月: - 実技の授業時	_	無 評·	価結果を掲載した	2, 245 105 220	単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数	実験・実習・ 演習の授業時	受審年月: - 実技の授業問 等数	_	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80	単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ミジャパン 総合体 さび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 療数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	寺数 実習・実技の授	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80	単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ URL	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ジャパン 総合体 等 評価機関等から第 派例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必修	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 特数 、修の実験・実 、修の演習の授	寺数 実習・実技の授 受楽時数	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科の ホームページ URL	アディダフ クラブ あ ■民間の ※有の場合 https://w	卒業生) ジャパン 総合体 等 評価機関等から第 派例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必修	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 特数 、修の実験・実 、修の演習の授	寺数 実習・実技の授 受楽時数	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携したた	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 きび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 (うち企	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 特数 、修の実験・実 、修の演習の授	寺数 実習・実技の授 受楽時数	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携したた	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必修	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 特数 、修の実験・実 、修の演習の授	寺数 実習・実技の授 受楽時数	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と業等を連携後した混響等のBいずれん	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 きび 等 評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一 な時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 (うち企	三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 特数 、修の実験・実 、修の演習の授	寺数 実習・実技の授 受楽時数	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		三者評価: 任意記載 hc.jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン	受審年月: - 実技の授業時 特数	寺数 皂習・実技の授 受業時数 業時数)	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体i ジャパン 総合体i 等	三者評価: 任意記載 (E意記載) 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・	受審年月: - 実技の授業時 持数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	寺数 皂習・実技の授 受業時数 業時数)	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体i ジャパン 総合体i 等	三者評価: 任意記載 ロc,jp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 業等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・	受審年月: - 実技の授業時 持数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	寺数 皂習・実技の授 受業時数 業時数)	無	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 まを連携した 等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・ 演習の単位数	受審年月: - 実技の授業時 持数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	寺数 を習・実技の授 受楽時数 楽時数)	無評本	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と業等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 ま等と連携した 等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・ 演習の単位数 と連携した必	受審年月: - 実技の授業時 持数 ・修の実験・実 を修の演習の授業 実技の単位数 な	等数 を習・実技の授 受業時数 業時数) な	無評本	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と業等を連携後した混響等のBいずれん	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等した 等と連携した 等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・ 演習の単位数 と連携した必 と連携した必 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 東技の授業時 を修の実験・実 を修の演習の授業 実技の単位数 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない	等数 実習・実技の授 受業時数 薬時数) 枚 を習・実技の単	無評本	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と業等を連携後した混響等のBいずれん	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 ま等と連携した 等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・ 演習の単位数 と連携した必 と連携した必 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 東技の授業時 を修の実験・実 を修の演習の授業 実技の単位数 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない	等数 実習・実技の授 受業時数 薬時数) 枚 を習・実技の単	無評本	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と業等を連携後した況 (A、Bにずれかか	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等した 等と連携した 等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・ 演習の単位数 と連携した必 と連携した必 と連携した必 と連携した必	受審年月: - 東技の授業時 を修の実験・実 を修の演習の授業 実技の単位数 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない	等数 実習・実技の授 受業時数 薬時数) 枚 を習・実技の単	無評本	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と実等をと連携後した況である。	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した 等と連携した 授業時数 うち企業等 うち企業等 うち企業等 単位数 うち企業等 単位数 うち企業等 等と連携した	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必 と連携した必 たインターン 実験・実習・ 単位数 と連携した必 と連携した必 たインターン	受審年月: - 実技の授業時 等数	等数 実習・実技の授 受業時数 薬時数) 枚 を習・実技の単	無評本	価結果を掲載した	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生)	三者評価: 任意記載 にjp/ 等と連携した をと連携した 投業等数 うち企業等 うち企業等 単位数 うち企業等した をと連携したた 単位数 うち企業等した に変した。	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きながあった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、 参修の演習の単位数 ・ 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	寺数 実習・実技の授 受楽時数) 枚 実習・実技の単 単位数 立数)	無評本	価結果を掲載した一ムページURL	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	アミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と業等の実施状況か	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 (ランカ () 等価 (三者評価: 任意記載 等等とと連携したたた。 要等等 提表を企業 表示を企連携 したた を まま ま	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きながあった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、 参修の演習の単位数 ・ 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	寿数 と習・実技の授 受業時数 と と と と と と と と と と と き と き と き さ と さ し な 立 な 立 数 り し な り な り な り し な り り り り り り り り り り	無評本	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号)	2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位位時間 単位位時間 単位位時間 単位位時間 単位位時間 単位位 単位位 単位位 単位位 単位位 単位位 単位 単位 中世位 中世位 中世位 中世位 中世位	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のホームページ URL と連集施状か に記入)	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		三者評価: 任意記載 等等と連携したたた 理携・数 企企業 携し うちと連携・したた連携・な企業 等をと連携・したた連携・したと連携・したと連携・したと連携・したと連携・したと連携・したと連携・したと連携・した。	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きながあった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、 参修の演習の単位数 ・ 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	等数 と習・実技の授 受業時数 要業時数) ととでは、 とは位数 は立数) できるでは、 できるでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	無評本	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号)	- 2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位位時間 単位位時間 単位位時間 単位位 単位位 単位位 単位位 単位位 単位人	アミリースポーツ
第三者による 学校科のボールRL 当該 学科のボールRL と連実施状かと連実施ずれ に記入)	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(ラカル で	三者評価: 任意記載 「	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きながあった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、	専数 実習・実技の授 受業時数 (専修学校記 (専修学校記 (専修学校記	無 評	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号)	- 2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 中単単位 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	アミリースボーツ
第三者による 学校科の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 は	三者評価: 任意記載 「	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きなが、学で、 たインターン たであった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、	専数 実法の授 実技の授 実 表 で 実 表 で 実 表 で 表 で 実 表 で 表 で ま ま な で ま ま な で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 い ま で ま で ま か に す を 学 校 記 で ま で ま で ま で ま か に す を 学 校 記 い ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま	無	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号)	- 2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単単位 中華 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	アミリースボーツ
第三者による 学校科のボールRL 当該 学科のボールRL と連実施状かと連実施ずれ に記入)	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(ラカル で	三者評価: 任意記載 「	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きなが、学で、 たインターン たであった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、	専数 実法の授 実技の授 実 表 で 実 表 で 実 表 で 表 で 実 表 で 表 で ま ま な で ま ま な で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 い ま で ま で ま か に す を 学 校 記 で ま で ま で ま で ま か に す を 学 校 記 い ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま	無 評	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号)	- 2, 245 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 中単単位 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	アミリースポーツ
第三者による 学校評価 当該学科のボールRL 当該学科のジールRL と連実施技が、 と変等等、のいた況か に記入)	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 は	三者評価: 任意記載 「	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きなが、学で、 たインターン たであった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、	専数 実法の授 実技の授 実 表 で 実 表 で 実 表 で 表 で 実 表 で 表 で ま ま な で ま ま な で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 い ま で ま で ま か に す を 学 校 記 で ま で ま で ま で ま か に す を 学 校 記 い ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま	無	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号)	- 2, 245 105 220 80 0 40 1 1 2 0 1	単位時間 単単位 中華 単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	アミリースポーツ
第三者による 学校科のボールRL 当該 学科のボールRL と連実施状かと連実施ずれ に記入)	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 (ランカ)	三者評価: 任意記載 「	実験・実習・ 演習の授業時 と連携した必と たインターン 実験・実習・ 数と連携した必 たインターン 大きなが、学で、 たインターン たであった。	受審年月: - 実技の授業時 ・ 実技の授業 ・ 参修の演習の授業 ・ 実技の単位数 ・ 、	専数 実法の授 実技の授 実 表 で 実 表 で 実 表 で 表 で 実 表 で 表 で ま ま な で ま ま な で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 で ま を 学 校 記 い ま で ま で ま か に す を 学 校 記 で ま で ま で ま で ま か に す を 学 校 記 い ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま	無	価結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号)	- 2, 245 105 220 80 0 40 1 1 2 0 1	単単位 位	ァミリースボーツ
第三者による 学校評価 当該学科のボールRL 当該学科のジールRL と連実施技が、 と変等等、のいた況か に記入)	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) (ジャペン 総合体 できない (ジャペン 総合体 できない (学年 できない できない (学年 できない できない (ジャケン (ジャケン (ジャケン) (ジャケン (ジャケン) (ジャケン (ジャケン)	三者評価: 日本記載 日本記載 日本記載 日本記載 日本記載 日本記載 日本記載 日本記載	実験・実習・ 実際の授業・ と連携した必必と をとまります。 と連携したののでは、 実験ののでは、 実験ののでは、 とをは、 ととをしたののでは、 ととをしたののでは、 ととをしたののでは、 ととをしたののでは、 ととをしたののでは、 とのでは、 とののでは、 とののでは、 とののでは、 とののでは、 とののでは、 とののでは、 とののでは、 との	受審年月: - 実技の授業 時数 ・ 実技の授業 の 実験・ 実技の授業 できる	等数 実技の授 実技の授 実 表 で 実 表 で 表 で ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	無 評	編結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第5号)	- 2, 245 105 220 80 0 40 1 1 2 0 1	単単位 位	アミリースポーツ
第三者による 学校 学科のホーン 出該学科のボール URL と業等等の Bi入 に記入 に記入 に記入 に記入 に記 の 属性 につい は 乗記 と 変	アディダブ ▼ 大 の 大 の 場合 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	卒業生) ジャパン 総合体 (ランカ)	三者評価: 任意記載 「	実験・実習・実際・実習・実演の とき 連携した たん とき 連携 したた とき とき たん とき 単し した とき 単し した とき でた 期間 とき たん 後 多野に おけ しんかく ちゅうしん かい ちゅうしん かい	受審年月: - 実技の授業 時数 ・ 実技の授業 の 実験・ 実技の授業 できる	等数 実技の授 実技の授 実 表 で 実 表 で 表 で ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	無 評	編結果を掲載した 一ムページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第5号)	- 2, 245 105 220 80 0 80 40 	単単位 位	アミリースボーツ

- 1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

企業・業界団体等との連携により、職務等の遂行に必要となる最新の知識・技術・技能の修得のため、トレーナー業界、ス ポーツジム、スポーツ用品取扱店など、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび現状のスポーツ 関連業界に即した実習を含め授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- 1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。教育課程編成委員会は 業界関係者、有識者および学園職員で構成する。
- 2. カリキュラム作成委員会は「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員 会は関連する学校・関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
- 3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
- 4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会 において検討を行う。
- 5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
- 6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
- 7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の提言を十分に活かしカリキュラム改善等の教育課程の作成を定期 的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年2月1日現在

		1-16-1-	,
名 前	所 属	任期	種別
包國 友幸 氏		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	1
樋口 修哉 氏	株式会在bilma 人材開発部 部長	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	3
		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	-
		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	-

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載するこ
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、1月)

(開催日時(実績))

第23回 令和6年9月26日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分) 第24回 令和7年1月29日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分)

第25回 令和7年9月30日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- 1. 「機能活性プログラムの実施について」
- ・今年も機能活性プログラムの特別授業を1年生1回 2年生3回の合計120分×4回の授業を実施することを検討する。
- ・実施時期は1年生が2026年1月以降に1回、2年生が11月初旬から12月中旬に計3回の実施で検討する
- ・日本ストレッチング協会発行の「スポーツストレッチング」を新規テキストとして導入することを検討する。
- 2. 「学内施設(スタジオ トレーニングジム)を使った幼児向けスポーツスクールの集客について
- ・子どもスポーツ専攻の学生が指導者として学べる学内キッズスクールの運営を引き続き連携して進めていく。
- ・集客から指導まで㈱biimaと連携しながら進めていく。SNSでの発信についても助言をもらいながら進める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ関連の多様な企業、団体と連携し、現場で現役として活躍する講師による授業の受講やスポーツイベントの運営を学ぶ。連携授業を通して、技術・知識の向上を図るとともに「プロの技術」「実際の仕事」に触れることで学生自身の職業観を確立し、職業選択の結びつけることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

Bリーグ所属「サンロッカーズ」との連携実習では、担当者による事前講習会を経て公式戦運営実習を複数回実施。会場設営、警備、物販、試合運営等を担当者の指導のもとで実践する。

日本ストレッチング協会との連携授業では「機能活性ストレッチ」の演習、実習を受講。徒手抵抗による動きづくりなど高度な手技を学ぶ。連携授業においては受講後学内での成果をディスカッションしレポートを提出、評価とフィードバックを受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
企業連携演習 I	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを	Bリーグ所属「サンロッカーズ渋谷」の公式戦において、会場設営、進行補助、グッズ販売、警備、誘導等プロスポーツイベントの運営を実際に学ぶ。	(株)サンロッカーズ
企業連携演習 I	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	セカンドフィットネススタジオに所属する加圧トレーナーの指導のもと加圧トレーニングの理論を学ぶとともにと実習を行う。通常のレジスタンストレーニングとの効果の違いを体感する。	セカンドフィットネススタジオ
企業連携演習 Ⅱ	1.【佼内】企業等から の講師が全ての授業 た主切当	日本ストレッチング協会講師のもと「機能活性プログラム」の理論を学ぶとともに実習を行い、ストレッチやトレーニングとは異なる人間が持っている能力を活性化する手技を学ぶ。	特定非営利法人 日本ストレッチ ング協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

スポーツ業界においては常に新しいトレーニング方法やトレーニングギアが開発されており、スポーツ用品の販売において も新製品が速いスピードで市場に出回るため、スポーツ学科の教員においても最新の知識を身につける必要があり、その ためには、各企業、団体等の講習会等に教員が定期的に参加する必要があると考える。したがって、教員研修規定に従 い、授業や学生に対する指導上の知識等の修得および授業や学生に対する指導力等の修得・向上のための研修等を定 期的に行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「健康運動実践指導者主任教員研修」 連携企業等: 健康体力づくり事業財団

期間: 令和7年3月13日(木) 対象: スポーツ学科教員

内容 1. 日本人の食事摂取基準について

2. 令和6年度指導実技試験評価の総括

②指導力の修得・向上のための研修等

期間: 令和7年2月21日(水) 対象: スポーツ学科教員

内容 障害のある人への差別と対応、およびLGBTQについて

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ダンスパフォーマンス向上のためのトレーニング」 連携企業等: RSC MASAMI STUDIO 君原正美

期間: 令和8年3月予定 対象: スポーツ学科教員

内容 ダンスジャンルの違い、ダンサーのフィジカルトレーニング、ダンサー向けのコンディショニング法

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「人権研修」 連携企業等: 東京都人権啓発センター

期間: 令和8年2月実施予定 対象: 呉 対象: 呉

7334

内容 人権問題の正しい理解と認識

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるかを検証するため学校関係者 評価を原則として年1回実施し、その結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 ガイドラインの評価項目 学校が設定する評価項目 ・理念・目的・育成人材像は、定められているか 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合して (1)教育理念・目標 いるか ・理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか ・社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか ・理念に沿った運営方針を定めているか 理念等を達成するための事業計画を定めているか 設置法人は組織運営を適切に行っているか (2)学校運営 学校運営のための組織を整備しているか 人事・給与に関する制度を整備しているか 意思決定システムを整備しているか 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか ・理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。 ・教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか ・教育課程について、外部の意見を反映しているか キャリア教育を実施しているか ・授業評価を実施しているか ・成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか (3)教育活動 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。 資格・免許取得の指導体制はあるか 資格・要件を備えた教員を確保しているか ・教員の資質向上への取組みを行っているか 教員の組織体制を整備しているか ・就職率の向上が図られているか (4)学修成果 ・資格・免許取得率の向上が図られているか ・卒業生の社会的評価を把握しているか 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ・退学率の低減が図られているか ・学生相談に関する体制を整備しているか ・留学生に対する相談体制を整備しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ・学生の健康管理を行う体制を整備しているか (5)学生支援 ・学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 課外活動に対する支援体制を整備しているか 保護者との連携体制を構築しているか 卒業生への支援体制を整備しているか ・産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んで いるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。 ・教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備して いるか 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備している (6)教育環境 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。

(7)学生の受入れ募集	・高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか ・学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか ・入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか ・入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか ・経費内容に対応し、学納金を算定しているか ・入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか
(8)財務	・学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか ・学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を 行っているか ・教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定している か ・予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか ・私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ・私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9)法令等の遵守	・法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか ・学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ・自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ・自己評価結果を公表しているか ・学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか ・学校関係者評価結果を公表しているか ・教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・国際交流に取組んでいるか ・学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか なし
1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	なし
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3)学校関係者評価結果の活用状況

基準1について

- (1)親が学校にはなかなか行けないのでその都度催しなどのお知らせを頂けると安心して通わせることができると思う。また、昨年の意見を活用していただけている環境は素晴らしい。
- (2)本科卒として経験した立場として、「ゼミ学習」の経験が今の職場で活かされている。ゼミ学習ではいろんな人と話す機会があったので自分の考えを伝えること、相手の考えを聞くことというのを同時にできたので、コミュニケーション力を身に着けることができた。お客様への応対についても複数の答えがあるため社内で会議にて検討する際にも活かされていると感じている。

基準2について

- (1)ここ数年、コロナ禍を経て様々な情報の取扱いについてシビアになってきた。管理者のみ限定で見られるシステムもあるが、管理者じゃない人が管理する個人情報もある。管理者以外の人が管理するときに権限がなくても管理できるようなリストを作るようにしている。学校の場合、特に学生に関する情報、企業に関する情報など取扱いに注意をしなければならない情報が多くなるので今後も取り扱いには注意をしていただきたい。
- (2)データ送信を行う場合、無料のものは使ってはいけないことになっている。また個人情報の研修を全社員が毎年受けている。アレルギーなどの個人情報のやりとりが多いので慎重に扱うようにしている。セキュリティに関する研修などを実施しても良いのではないか。

基準3について

- (1)社会に役立つ人材の育成として、学内だけでやっていては社会から取り残されてしまうため企業と連携することが非常に重要だと思う。高校としても専門学校で企業と連携して実践的な教育を受けられることは保護者に安心して勧められる。このまま継続し、更に連携企業を増やしていただきたい。
- (2)当社では営業利益を上げるための一般社員向けに営業研修、若手向けには接客のための営業基礎研修、管理職向けにはマネジメント研修やハラスメント研修などニーズに合わせて選べる形になっている。1年目、3年目、5年目まではカリキュラムが組まれ、新任管理職は勤怠やハラスメントの研修、長年管理職をされている方は任意で様々な研修から選べるようになっている。役職や勤務年数に応じた研修を導入しても良いかと思う。

基準4について

(1)鉄道・トラベル学科

検定実績・就職実績が高く素晴らしく。ゼミ学習の成果だと思います。また先生方の親切・丁寧な指導の賜物だと感じました。引き続き継続してください。

(2)スポーツ学科

先生方の日々の努力がすばらしいと感じた。学生に意識を高く持たせることの大変さ、机上で勉強しているだけでなく現場でモチベーションを上げることの大変さが伝わった。今後も楽しみにしている。

(3)ビジネス学科

最後の年でJR東海に就職できたり他にも多くのところに就職できたりしているということは、学生の頑張りは当然ですが、先生方のサポートがしっかりしているからだと思います。本当に素晴らしいです。

基準5について

- (1)スクールカウンセラーを導入されたということですが、学生目線にたった素晴らしい導入だと思います。
- 高校生はまだ未熟で担任の先生へ相談はしにくいこともある。本学ではスクールカウンセラーを導入後して5年が経つ。毎回予約でいっぱいになっている。専門学校進学後は悩みも変わってくるとは思うが安心できる学校として選んでもらえると思う。高校では保護者がスクールカウンセラーへ相談するというケースも出てきている。継続してください。
- (2)学生の経済的側面に対する支援体制が整備されている点は保護者の立場としてありがたい。他校の推薦などでは入 学後に競技を継続してケガなどで続けられず退学に繋がるケースもあると思うが、高校での頑張りを評価するというのは良 いと思う。

基準6について

(1)高校の修学旅行は生徒にとって一番の思い出になる。2年次の10月に実施。場所より中身に比重が置かれている。沖縄とベトナムの2か所からの選択制で生徒が選ぶ。希望者人数の関係で全員沖縄になった。本来でしたら海外の文化など経験して視野を広げてもらいたいと思っていたが実現できなかった。保護者にとっても海外は高額になるため保護者の負担を考慮することも重要。本校の場合、1年次から月1~2万円前後を任意で積み立てをしている。今後も継続をしてほしい。

基準7について

____(1)SUKI-1グランプリの開催について

入学してくる生徒たちはやりたいことが明確ではなく漠然としている生徒も多い。オープンキャンパスやCMなどをきっかけにSUKI-1を知ってもらって興味を持っていただけたり、不登校の生徒の気持ちの切り替えのきっかけに繋がる。社会貢献という教育的な面も大きいのではないかと思う。引き続き継続してください。

(2)様々な情報提供という観点からはホームページがとても見やすいですし、目を引くものが多い。知りたい情報が探しやすいと感じた。インスタでは運転士用のシミュレータをやっている点が見られるのも面白かった。引き続き発信して欲しいと思いました。

基準8についての自己評価は委員の方々から「適正」であると評価されました

基準9について

(1)本校でも自己評価を実施しこれをホームページに公開しているが、これを実施し、公開している。公開することで第3者の目がある点は抑止力になり、進学先として安心できる。

基準10について

- (1)当社でも今年2月に職場見学会を開催した。社員の家族が対象でたくさんのお子さんが来た。やはりシミュレータが大人気だった。こういった施設の開放やイベントは学生にとって貴重な経験になったと思う。継続してほしい。
- (2) SUKI-1の大会では高校生でも意識が高くレベルが高いと感じた。これからたくさん周知されていくと思う。私たちも周知する仕事が多いが、地方の新聞社やメディアさんヘアピール。その記事を持って高校さんヘアピールするのが良いと思う。高校生は全然テレビを見ないらしく一番有効なのはSNSだと思う。高校生にはTickTockの広報は効果的で良いのではないか?

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
富永 高広氏	株式会社日本旅行 東京教育旅行営業部 部 長	31日(1年)	業界関係 者
林 哲治氏	立志告局寺字校 教與	31日(1年)	高校関係 者
平澤 精一氏	1 5 (8 22 7+ ++ xi, 7 ++ xy + xy ++ xy + xy	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
藤代 真弘氏		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
丸茂 茜 氏	ヒロセ電機株式会社 製作本部長室	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・ その他())

URL: 公表時期: https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 令和7年6月20日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、 本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(2) 専門学校にあげる情報提供等への取組に関するよう	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・目的、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在学学生数・授業計画表(シラバス)・進級・卒業の要件等・取得資格、検定試験合格等の実績・卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	・教職員数 ・教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況・実習・実技等の取組状況・就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況・課外活動
(6)学生の生活支援	·学生相談室、就職相談室
(7)学生納付金·修学支援	・学生納付金 ・活用できる経済的支援措置
(8)学校の財務	・事業報告書、計算書類、監査報告、財産目録
(9)学校評価	・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ
((11)その他 ※(10)みび(11)については任音記載	•学則

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・ その他(

https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 令和7年7月31日

URL: 公表時期:

授業科目等の概要

	(3	ケル	新 草	東田神和 フォ	授業科目等の概要 ペーツ学科競技スポーツコース)											_
		分類	秋 丁	(寺)	(一)子科妣女スポーラコース)	配	授		扬	業	方法	場	所	教	員	企
		VRR	4			当年		単		1	実験			+	-Mr	業
	必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	次	業	位	講	演	技実	校	校	専	兼	等と
	修	必修	選択			学	時	数	義	習	習	内	外	任	任	の連
						期	数				実				_	携
1	0			一般教養講座 I	非言語分野である一般的な計算(文章 題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力および言語分野、時事問題を 理解する。	1 前	40	2	0			0		0		
2	0			一般教養講座 II	本: 下のの 非言語分野である一般的な計算(文章 題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力を向上させ、言語分野、時事 問題の理解を深める。	1後	60	3	0			0		0		
3		0		就職対策講座	就職活動に向けた自己分析を行い、自身の 就職観を確立する。また志望する業界、企 業の研究を行う。	1後	20	1		0		0		0		
4		0		就職ゼミナー ル	社会人として必要とされる基本的なものの 見方や考え方・行動の仕方について理解を 深め、礼儀・マナーの修得、面接演習を行 う。	2 前	60	3		0		0		0		
5		0		ビジネス文書	ビジネス文書の基本、社内文書の種類と役割、社外文書の種類と役割、通信事務、表とグラフの活用等について学ぶ。	2 前	40	2	0			0		0		
6		0		ビジネスマ ナー	職場生活でのルールを理解し、職場の人間 関係、就業中のマナー、服装と身だしな み、話し方の基本を学ぶ。	2 前	40	2	0			0		0		
7		0		表計算ソフト 演習	表計算ソフト「Excel」を使用し入 カ、修正などの基本的操作から、関数の使 い方までを学ぶ。	2 後	40	2		0		0		0		
8		0		文書作成ソフ ト演習	ワープロソフト「Word」を使用し、文字の入力・修正・編集などの基本操作から 効果的なビジネス文書の作成技法を学ぶ。	2 前	40	2		0		0		0		
9		0		プレゼンテー ションソフト 演習	パワーポイントを利用してプレゼンテー ションの企画、作成、発表までを学ぶ	2 後	40	2		0		0		0		
10	0			企業連携演習 I	スポーツ分野の様々な企業や現場で実際に 活躍している方の講演や実習を特別授業と して受講し、レポートを提出する。	1 後	40	2		0		Δ	0		0	0
11	0			トレーニング 実習 I	体力測定の結果分析、評価を元にフリー ウェイト、各種マシン、自重負荷を用い、 正しいレジスタンストレーニング法を学 び、実践する。	1 前	70	2			0	0		0		
12	0			トレーニング 実習 II	体力測定の結果分析、評価を元にフリー ウェイト、各種マシン、自重負荷、パラン スポール、TRX等を用い、目的に合わせたト レーニング法を学び実践する。	1 後	70	2			0	0		0		
13	0			企業連携演習 II	スポーツ関連産業やスポーツイベント運営 企業の社員指導の下、現場での仕事を主体 的に体験し、レポートを作成、提出する。	2 前	40	2		0		Δ	0		0	0
14	0			卒業研究	専門学校での学習の集大成として、授業科 目・就職先の業界研究など学生がテーマを 考えて論文を作成する。	2 後	##	8		0		0		0		
15		0		インターン シップ	各講義、及び実習で習得した知識をフィットネス企業、トレーナー企業、スポーツ系 ト売本条件での就業体験の場で実践することを目的とする。	1 前	40	2		0			0	0		
16		0		運動障害の予 防	運動に伴う内科的、整形外科的障害について理解を深める。捻挫、疲労骨折、腰椎分離症、熱中症や月経異常の要因、予防法を理解する。傷病者に対する応急処置の実際を習得させる。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
17		0		運動生理学	呼吸循環器、骨格筋、神経と運動との関連 の理解を高める。特に筋収縮様式、エネル ギー供給に関する分野の理解を重視し、エ ネルギー代謝の計算法も学ぶ。	1後	20	1	0			0		0		
18		0		エアロビック 運動の実際 I	エアロビックダンス一連の動作を実習し、 正しいアライメントの習得、心肺持久力、 筋持久力向上を目指す。性別、年齢、体力 差を考慮した安全なプログラムの作成、指 導法を学ぶ。	1 前	35	1			0	0			0	
19		0		エアロビック 運動の実際 II	エアロビックダンスプログラムの作成を行う。またジョギング・ウォーキングにおいては実際に歩行、走行を実習、検証することでそれぞれの特性 効果を理解し、健康づくりのための運動指導に活用できるようづくりのための運動指導に活用できるよう	1 後	35	1			0	0			0	
20		0		エアロビック 運動の理論	にする。 有酸素性運動をエネルギー供給機構との関 係から理解する。最大酸素摂取量、無酸素 性作業閾値の推定方法を習得する。	1 前	20	1	0			0		0		
21		0		栄養と体重調 節	栄養と健康、スポーツとの関連を理解する。適切な減量を実施するためのエネル ギー消費量の計算法を習得する。また、競 找選手対象の栄養摂取法、調理法について 知識を習得する。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
22		0		機能的解剖学	骨格筋の分類、構造、特徴と役割を基礎に 人間の代表的な関節(肩関節、脊柱、股関 節、膝関節、足関節)の構造及び各種運動 時、トレーニング時のパイオメカニクスに ついて理解する。	1 前	20	1	0			0		0		
23		0		キャンプ実習 I	テントの設営方法・撤収方法、野外料理の 方法、ローブワーク、キャンプファイヤー の運営、キャンブ道具の使い方等を学ぶと ともに、集団行動でより良い人間関係の構 築を学ぶ。	1 前	35	1			0		0	0		
24		0		クラブ活動 I	野球、サッカー、パスケットポール、パレーポール、パドミ ントン、テニス、チアリーディングから一種目選択 し、競技力向上に努める。春季・夏季大会 を発信に基本的技術、チーム戦術の理解に 努める。	1前	##	3			0		0	0		
25		0		クラブ活動Ⅱ	野球、サッカー、バスアッフトボール、バレーボール、バドミ ントン、テニス、チアリーディンがの中から一種目選 択し、競技力向上に努める。秋季・冬季大 会での上位入賞を目標とする。	1 後	##	3			0		0	0		

т														
26	0	健康管理概論	日本人の疾病傾向の変化、生活習慣病への 理解を高める。それを踏まえ運動が健康づ くりに果たす役割を認識し、有酸素運動を 中心とした運動プログラム作成に生かす。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
27	0	小売業の類型	流通における小売業の基本的役割、流通経路別小売業の基本的役割、形態別小売業の 役割、店舗別小売業の役割、チェーンスト アの役割等を学ぶ。	1 前	20	1	0			0		0		
28	0	小売業務演習	流通における小売業の役割、形態別の小売業の役割やチェーンストア等の仕組みについて理解する。	1後	40	2		0		0		0		
29	0	スノーボード 実習	実習を通してスノーボードの技術を身に付け、JSBAの級別テストを取得するとともに、共同生活を通して団体行動を学ぶ。	1後	35	1			0		0		0	0
30	0	ストアオペ レーション	店舗運営(ストアオペレーション)の基本 的役割を理解し、受発注業務および包装、 ワークスケジューリング等の基本的知識を 学ぶ。	1 前	20	1	0			0		0		
31	0	ストレッチン グの理論と実 際	スタティック、バリスティック、ダイナ ミックストレッチ及びPNFに代表される徒手 抵抗を用いたストレッチ法の意味と効果を 理解し、安全性の高い指導法を習得する。	1 前	20	1	0			0		0		
32	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 I	スポーツパフォーマンス向上を目的としス ピードトレーニングの理論及び技術を習得 する。	1 前	35	1			0	Δ	0	0		
33	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 II	爆発的パワー獲得のためにブライオメトリ クスの安全で効果的なトレーニングの実施 方法、プログラミング法を学ぶ。あわせて 競技スポーツとしてのフットサル、パドミントンの実 技を行う。	1 後	70	2			0	Δ	0	0		
34	0	スポーツアイ シング	コンディショニング、応急処置、リハビリテーションの各分野において活用されているアイシングの理論と実際を講義、演習を通して習得する。	1 前	20	1		0		0		0		
35	0	スポーツテー ピング I	テーピング知識と技術を向上させることを 目的とする。ホワイトテープ、伸縮テー プ、キネシオテープ等を目的別、部位別で 適切に選択、処置できるようにする。	1 後	20	1		0		0		0		
36	0	ダイビングラ イセンス講座	オープンウォーターダイバーライセンス取得を目指し、潜水の理論と潜水の生理、機材の使用法、圧平衡、海洋環境等を学ぶ。	1 前	20	1		0		0			0	
37	0	販売·経営管 理	販売員の基本業務、法令知識、販売事務に 関する事項を学ぶ。	1 後	20	1	0			0		0		
38	0	補強運動の理 論	レジスタンストレーニングの分類とその特 徴を踏まえ、代表的なレジスタンストレー ニングの実施方法、トレーニングプログラ ム作成の基礎を学ぶ。	1 前	20	1	0			0		0		
39	0	マーケティン グ	マーケティング活動における販売情報とその活用、販売促進の原理とその展開について学ぶ。	1 後	20	1	0			0		0		
40	0	マーチャンダ イジング	商品の構成、評価、ブランド、サービスに ついての基礎的な知識および、販売員と商 品知識の関係について学ぶ。	1 前	20	1	0			0		0		
41	0	アウトドアス ポーツ演習	㈱PADDLER JAPANとの連携のもと、スタンドアップパドル(SUP)やアウトリガーカヌーの実習を行う。	2 前	20	1			0		0		0	0
42	0	運動指導の心 理学的基礎	生活習慣病予防のための運動習慣の確立、 競技力向上等、運動者の目的別に適切な動 機付けの方法を理解させる。又、競技者向 けのメンタルトレーニングプログラムの作 成を行う。	2 前	20	1	0			0		0		
43	0	キャンプ実習 Ⅱ	キャンブ実習を通して、野外活動の直接体 験の不足部分を体験するとともに集団行動 でより良い人間関係を構築する。	2 前	35	1			0		0	0		
44	0	クラブ活動Ⅲ	選択した各クラブで競技力向上に努める。 又、チームの中心メンパーとしてリーダー の役割を果たせるようにする。春季・夏季 大会での上位入賞を目標とする。	2 前	##	3			0	Δ	0	0		
45	0	クラブ活動Ⅳ	選択した各クラブで競技力向上に努める。 又、チームの中心メンバーとしてリーダー の役割を果たせるようにする。集大成とし て秋季・冬季大会での上位入賞を目標とす る。	2 後	70	2			0	Δ	0	0		
46	0	健康運動演習	健康体力作り事業財団認定の健康運動実践 指導者の資格取得を目標とし、下記全分野 の問題演習を行い、理解を深める。	2 前	80	4		0		0		0		
47	0	健康づくりと 運動プログラ ム	健康づくりを目的とする運動プログラム処 方上の原則を種類、強度、時間、頻度の観 点から理解する。特に有酸素運動の重要性 を理解し有効な運動プログラムを作成でき るようにする。	2 後	20	1	0			0		0		
48	0	指導法	受講者の年齢、体カレベル 設定目標に合わせた運動プログラムを作成し、実際に指導を行う。さらに施設の運営管理法やリスクマネジメントに対する理解を深める。	2 後	80	4		0		Δ	0	0		
49	0	スポーツ・コ ンディショニ ンク˙実習Ⅲ	ウォーミングアップ、クーリングダウン、プライオメトリックトレーニン グ、スピードトレーニングのプログラムを組み、実 際に指導できるようにする。また、競技ス ボーツとしてソフトボール、卓球の実習を 行う。	2 前	70	2			0	Δ	0	0		
50	0	スポーツテー ピング II	キネシオロジーテーブの特徴である接着、 被覆、伸縮を理解し、目的別、部位別、症 状別のキネシオロジーテーピング法を学 ぶ。		20	1		0		0		0		
51	0	スポーツマッ サージ	スポーツマッサージ技術の習得を目的とする。怪我の予防、疲労回復、競技力向上等を目的とした各種マッサージ技術の演習を行うと共に生理学的理論も身に付ける。	2 後	20	1		0		0		0		
52	0	体力測定と評 価	新体力テストに準じ正しく身体能力の測定、評価できるようにする。体組成の測定を皮下脂肪厚計、BIA法等、機器を用いて行えるようにする。	2 前	20	1	0			0		0		
	Π	トレーニング	体力測定の結果分析、評価を元にトレーニングプログラム作成法を確立する。尚、^゚ン	2					0	0		0		

54	0			習得した各種トレーニング法を元に第3者 に対して対象別、目的別プログラムを第三 者へ提供、指導する。指導前のかかせリケ、フ がう5.0提供までを実体験する。また、各種 目においては最大挙上値の更新を目指す。	2 後	35	1		0	0		0		
		合	計	54	科	·目			92	単位	立 (.	単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件: 成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間	1 学年の学期区分 2 期
履修方法: 学科として履修科目が決定している。	1 学期の授業期間 20 週

[|] 魔族方法: 学科として履修科目が決定している。
(御意事項)
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年	-月日	校	長名			所在地			
専門学校日本鉄道		平成9年10	月1日	吉野	5 充利		130-8565 東京都墨田区太平2-3	3-2			
設置者名		設立認可年	月日	代表	長者名	(電話)	03-3624-5444	所在地			
学校法人立志		平成10年10			· 一功		130-8565 東京都墨田区錦糸1-2				
		, , ,	1001			(電話)	03-3624-5441		7年度	一种类字母	5 明神扭韧宁左帝
分野		認定課程名		認定学科スポーツ学			引士認定年度	高度専門士認定	上午及		専門課程認定年度
文化・教養	又10	と教養専門課程	パーソ	ナルトレー		平成	12(2000)年度			平成2	26(2014)年度
学科の目的	教育基本的とする。	法および学校教育法	に基づき人村	格の陶冶とス	ポーツ、ビジネ	ネスおよびー	般教養に関する正しい	印識を身につけ、日々	本経済の発	展に貢献でき	らる人材の育成を目
学科の特徴(主な 教育内容、取得可 能な資格 等)	健康運動	実践指導者 NSCA/	パーソナルトし	レーナー JA	TIトレーニンク	が指導者 日	本漢字能力検定 ビジネ	ス能力検定ジョブバ	パス マイクロ	ロソフトオフィ	ススペシャリスト等
修業年限	昼夜	全課程の修了に必	要な総授業 単位数	時数又は総	講	莀	演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いず かに記入		0 単位時間		単位時間	1,080 単位時間	630 単位時間		単位時間	一 単位時間
生 生 公 中 日	开 往5			- 単位		単位	一 単位	一 単位	_	単位	一 単位
生徒総定員	_,_,		生数(生徒実員		留学生割·		中退率				
180 人		大 (0)	. (0人	0	%	0 %				
	■卒業者 ■就職希	<u> </u>	:	11 10		<u> </u>					
	■就職者	·数 (E)	:	10 10		<u> </u>					
	■地元就	職者数(F) (E/D)		100		%					
	■就職者	に占める地元就職者	の割合 (F/	E)							
	■卒業者	に占める就職者の割	合(E/C)	100		%					
			,	100		%					
就職等の状況	■進学者■その他			U		Д					
	(令和	6 年度卒業	者に関する令	合和7年5月1日	時点の情報)						
		職先、業界等			7,111						
	(令和6年度	[卒業生]									
									77 ONET	EAM・エソラ	など
		プ ファストフィットネ	スジャパン	野村不動產	産ライフ&スァ	ポーツ グッ	ドウェーブ G7ホール	ディングス リラック	/ ONE		
	ライザッフ			野村不動	産ライフ&スァ	ポーツ グッ		ディングス リラック	/A UNEI		
第三者による	ライザップ	プ ファストフィットネ 評価機関等から第 、例えば以下について	三者評価:	野村不動	産ライフ&ス ፣	ポーツ グッ	ドウェーブ G7ホール 無	ディングス リラック	/X ONE!		
第三者による 学校評価	ライザップ ■民間の ※有の場合	評価機関等から第	三者評価:	野村不動品			無 評価	話果を掲載した	- ONET		
	ライザップ ■民間の ※有の場合	評価機関等から第	三者評価:	野村不動産	全ライフ&ス ァ 受審年月:		無 評価				
学校評価 当該学科の	ライザップ ■民間の ※有の場合	評価機関等から第 、例えば以下について 評価団体: 一	三者評価: ^{任意記載}	野村不動産			無 評価	話果を掲載した			
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合	評価機関等から第	三者評価: ^{任意記載}	野村不動産			無 評価	話果を掲載した			
学校評価 当該学科の	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21.	三者評価: ^{任意記載}	野村不動産			無 評価	話果を掲載した	-		
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定)	三者評価: ^{任意記載}	野村不動産			無 評価	話果を掲載した	_		
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数	三者評価: 任意記載 ac.jp/		受審年月:	-	無 評価	話果を掲載した	2, 110	単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企乳	三者評価: 任意記載 ac.jp/	た実験・実習	受審年月: 3・実技の授業	-	無 評価	話果を掲載した	2, 110 105	単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等と連携し		受審年月: 3・実技の授業	-	無 評価	話果を掲載した	2, 110 105 220	単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等と連携し 授業時数	た実験・実習た演習の授業	受審年月: ・ ・ 実技の授業 は時数		無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80	単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	三者評価: 任意記載 ac.jp/ ac.jp/ な等と連携し 投業時数 うち企業	た実験・実習に大演習の授業等と連携した	受審年月: 『・実技の授業 時数 ・必修の実験・	実習・実技	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (水のえば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	受審年月: ・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の	実習・実技 授業時数	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (水のえば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	受審年月: 『・実技の授業 時数 ・必修の実験・	実習・実技 授業時数	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (水のえば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	受審年月: ・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の	実習・実技 授業時数	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 た、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 並時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うちú	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	受審年月: ・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の	実習・実技 授業時数	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携した況への表でである。	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (大) (例えば以下について 評価団体: 一 	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した	受審年月: ・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の	実習・実技 授業時数	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (を) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で) (で	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 等と連携	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した したインター	受審年月: ・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の	実際 ・実技 実習・実技 授業時数)	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (大) (利えば以下について 評価団体: 一 	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接業時数 うち企業 業等と連携 うち企業 業等と連携し	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した 等と連携した したインター	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授	実際 ・実技 実習・実技 授業時数)	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (大) (利えば以下について 評価団体: 一 	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接案時数 うち企業 等と連携 うち企業 等と連携し 等と連携し 等と連携	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した はたインター た実験・実習	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授	実際 ・実技 実習・実技 授業時数)	無	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (の表は以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. を時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うち1 を数による算定) 総数による第定) 総数による第定)	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接案時数 うち企業 等と連携し ま等と連携し 単位数	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授	実際 ・実技 実際・実技 授業時数)	無 評価 ホー	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (の表は以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. を時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うち1 を数による算定) 総数による第定) 総数による第定)	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 等と連携し ラち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し 等と連携し	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した	受審年月: 『・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授	実 時数 実習・実技 授業 時数) 数 変数	無 評価 ホー	話果を掲載した	2, 110 105 220 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況へんのです。	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (の表は以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うち1 を数による算定) 総数による第定) 総数による第定) 総数による第定)	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接案時数 うち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した 等と連携した	受審年月: 『・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実 時数 実習・実技 授業時数) 数 実習・実技	無 評価 ホー	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携にした況への表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (の表は以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うち1 を数による算定) 総数による第定) 総数による第定) 総数による第定)	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接案時数 うち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した 等と連携した	受審年月: 『・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	等でである。 実習・実技 授業時数) 数 実習・実技	無 評価 ホー	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (の表は以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うち1 を数による算定) 総数による第定) 総数による第定) 総数による第定)	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等と連携し 接案時数 うち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し 等と連携し うち企業 等と連携し うち企業	た実験・実習 た演習の授業 等と連携した したインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した 等と連携した	受審年月: 『・実技の授業 時数 ・必修の実験・ ・必修の演習の ・ンシップの授 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	等でである。 実習・実技 授業時数) 数 実習・実技	無 評価 ホー	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 5、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 位時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うちá 放数による算定) 総数による第定) 総単位数 うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等とと連携しし うちと連携とき事故 うちと連携しし うちと連携しし うちと連携しし ま等とと連携しし ま等とと連携しし まずる企業 まずるとを変	た実験・実習の を連携したた 等と連携したた た演習の 大演習の 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で	受審年月: 『・実技の授業 は時数 ・ 必修の実験・ 必修の演習の ・ 一 ンシップの授 ・ ・ 実技の単位 ・ ・ 必修の実験での ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	等でである。 実習・実技 授業時数) 数 実習・実技	無 評価 ホー	話果を掲載した	2, 110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第5、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち必ず での担当な数の教育	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等をと連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業者程後事もと連携し ま等とと連携し の方な企業者程後事もと連携に	た実験・実習 を連携した を連携した た演習の授業 等と連携した と実験・実単位 た演習の単位 た演習の単位 たであった をと連携した をと連携した をと連携した をと連携した をであった であった。 学であった。 である。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 である。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で に な い で に い で い で	実習・実技 授業時数) 数 実習・実技 単位数	無 評価 ホー	結果を掲載した ムページUR L	2,110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 5、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 位時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うちá 放数による算定) 総数による第定) 総単位数 うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま うち企ま	三者評価: 任意記載 ac,jp/ 等をと連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業者程後事もと連携し ま等とと連携し の方な企業者程後事もと連携に	た実験・実習 を連携した を連携した た演習の授業 等と連携した と実験・実単位 た演習の単位 た演習の単位 たであった をと連携した をと連携した をと連携した をと連携した をであった であった。 学であった。 である。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 である。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で に な い で に い で い で	実習・実技 授業時数) 数 実習・実技 単位数	無	結果を掲載した ムページUR L	2,110 105 220 80 0 80 40	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携をした況への表	ライザップ ■民間の ※有の場合 https://w	評価機関等から第 (大) (利) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	三者記載 「在意記載 ac.jp/ 「等等とと連連勝ちちちと連携勝立と連携勝かな企業等等単立を連携勝ししままままままままままままままままままままままままままままままままままま	た実験・実習 を連携した を連携した た演習の授業 等と連携した と実験・実単位 た演習の単位 た演習の単位 たであった をと連携した をと連携した をと連携した をと連携した をであった であった。 学であった。 である。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 である。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で に な い で に い で い で	実習・実技 要	無 評価 ホー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第	i結果を掲載した ムページURL	2, 110 105 220 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位は時間 単位は時間 単位は時間 単位は 単位は 単位は 単位は 単位は 単位は 単位は 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携は状況 (A、Bいずれか) に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第	三者評価: 日意記載 一名記載 一記述 一述 一	た実験・実習 を連携した を連携した た演習の授業 等と連携した と実験・実単位 た演習の単位 た演習の単位 たであった をと連携した をと連携した をと連携した をであった をと連携した をであった。 学であった。 である。 であった。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で に な い で に い で い で	実習・実技 授業時数) 数 実単位数 (専修学	無 デ仙 ホー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	新編集を掲載した ムページURL (51号)	2, 1100 105 220 80 0 80 40	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位は時間 単位位時間 単位位 単位位 単位位 単位位 単位 単位 上 上	
学校評価 当該学科のホームページ URL と実等等のした況かした況かいに記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第 (大) (利) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	三者評価: 日意記載 一名記載 一記述 一述 一	た実験・実習 を連携した を連携した た演習の授業 等と連携した と実験・実単位 た演習の単位 た演習の単位 たであった をと連携した をと連携した をと連携した をであった をと連携した をであった。 学であった。 である。 であった。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で に な い で に い で い で	実習・実技 授業時数) 数 実単位数 (専修学	無 評価 ホー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第	新編集を掲載した ムページURL (51号)	2, 1100 105 220 80 0 80 40	単位時間 単位時間 単位時間 単位は時間 単位は時間 単位は時間 単位は 単位は 単位は 単位は 単位は 単位は 単位は 単位 単位 単位 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携は状況 (A、Bいずれか) に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等とと連携しし うち企業等と連携もしません。 うちと連携しし うち企業等等と連進機し うち企業 第年を修りた事ません。 第年を修りたません。 第年をを修りたません。 第年をををををををををををををををををををををををををををををををををををを	た実験・実理学・実際・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実施したたた演響のしたたまない。 たたでは、まました。 たたでは、まままでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で に な い で に い で い で	実習・実技 授業時数) 変数 実単位数) (専修学	無 デ仙 ホー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	新編集を掲載した ムページURL 51号) 52号) 53号)	2, 1100 105 220 80 0 80 40	単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位は時間 単位位時間 単位位 単位位 単位位 単位位 単位 単位 上 上	
学校評価 当該学科のホームページ URL と実際等等の裏施ポルか に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第 (大個元ば以下について 評価団体: 一 がww.nihonschool21. 位時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち必ず (うちが ())) () () () () () () () () () () ()	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等とと連携しし うち企業等と連携もしません。 うちと連携しし うち企業等等と連進機し うち企業 第年を修りた事ません。 第年を修りたません。 第年をを修りたません。 第年をををををををををををををををををををををををををををををををををををを	た実験・実理学・実際・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実施したたた演響のしたたまない。 たたでは、まました。 たたでは、まままでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で はい で	実習・実技 授業時数) 東投業時数) (専修学 (専修学	無 アー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	新編集を掲載した ムページURL (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号)		単位時間単位時間間単位時間間単位位時間間単位位時間間単位位時間間単位位時間間単位位は位位は単位位位位位位位位位位	
学校評価 当該学科のホームページ URL と連携施式れか に記入) に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第等、例えば以下について 評価団体: 一 www.nihonschool21. 位時間による算定 総授業時数 うち企ま うちで ○ ○	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等とと連携しし うち企業等と連携もしません。 うちと連携しし うち企業等等と連進機し うち企業 第年を修りた事ません。 第年を修りたません。 第年をを修りたません。 第年をををををををををををををををををををををををををををををををををををを	た実験・実理学・実際・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実施したたた演響のしたたまない。 たたでは、まました。 たたでは、まままでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で はい で	実習・実技 授業時数) 東投業時数) (専修学 (専修学	無 アー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	新編集を掲載した ムページURL (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号)		単位時間間単単位時間間間単単位位時間間間間間間間間間間間間間間では位位は位位位位位位位位位位位位位位位位位位	
学校評価 当該学科のホームページ URL と実際等等の裏施ポルか に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第等、例えば以下について 評価では、一 がww.nihonschool21. 立時間による第定) 総授業時数 うち企ま うちかが (うちが) 立数による第 (うちが) を単位数 うち企ま うちを企ま うちを必ずすな数と当ま でもな数と当までは、一 でもな数とは、できなが、できなが、できなが、できなが、できなが、できなが、できなが、できなが	三者評価: 任意記載 ac.jp/ 等とと連携しし うち企業等と連携もしません。 うちと連携しし うち企業等等と連進機し うち企業 第年を修りた事ません。 第年を修りたません。 第年をを修りたません。 第年をををををををををををををををををををををををををををををををををををを	た実験・実理学・実際・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実験・実施したたた演響のしたたまない。 たたでは、まました。 たたでは、まままでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	受審年月: 『・実技の授業時数 ・必修の実験・必修の演習の授金・実技の単位を表現の関係を表現の関係を表現のである。 という おい でき おい で はい で	実習・実技 授業時数) 東投業時数) (専修学 (専修学	無 アー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	新編集を掲載した ムページURL (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号) (1号)		単位時間 単単単単単単単単単単単単単位 中時間 単単位位時間 単単位位時間 単単位位 単単位位 単単位位 単単位 単単位 単一位 世一位 単一位 世一位 単一位 世一位 世一世 世一世 世一世 世一世 世一世 世	
学校評価 当該学科のホームページ URL と実際等等の裏施ポルか に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第 (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は) (三名 () () () () () () () () () (た実験・実習の授業を連携したた演習の授業を連携したた演習の世界を連携したた実験・実単位とた演習の単立とでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	受審年月: 『・実技の授業・・実技の授業・必修の実験・のプログランシップの授金を修の演習の授金を修の演習の授金を修の演習の対象を必修の演習の単位を表し、必修の演習の単位を表し、というでは、これに関する。	実持数 実技 大大	無	i結果を掲載した ムページURL 51号) 52号) 53号) 54号)		単位時間 単単単単単単単単単単単単単位 中時間 単単位位時間 単単位位時間 単単位位 単単位位 単単位位 単単位 単単位 単一位 世一位 単一位 世一位 単一位 世一位 世一世 世一世 世一世 世一世 世一世 世	
学校評価 当該学科のホームページ URL と連携施では、に記入) に記入)	ライザップ ■民間の場合 https://w (A:単位	評価機関等から第 (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は以下について (大の人は) (三者評価: - 任意記載 - 本語	た実験・実理学・実理学・実施・実施・実施・実施・実施・実施・実施・をと連携したた。 実工 はんした 大き はい	受審年月: 『・実技の授業・・実技の授業・必修の実験・のプログランシップの授金を修の演習の授金を修の演習の授金を修の演習の対象を必修の演習の単位を表し、必修の演習の単位を表し、というでは、これに関する。	実持数 実技 大大	無 アー の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第 校設置基準第41条第1項第	i結果を掲載した ムページURL 51号) 52号) 53号) 54号)	2, 1100 105 220 80 40 40 —————————————————————————————	単位時間 単単単単単単単単単単単単単位 中時間 単単位位時間 単単位位時間 単単位位 単単位位 単単位位 単単位 単単位 単一位 世一位 単一位 世一位 単一位 世一位 世一世 世一世 世一世 世一世 世一世 世	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

企業・業界団体等との連携により、職務等の遂行に必要となる最新の知識・技術・技能の修得のため、トレーナー業界、スポーツジム、スポーツ用品取扱店など、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび現状のスポーツ 関連業界に即した実習を含め授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- 1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。教育課程編成委員会は 業界関係者、有識者および学園職員で構成する。
- 2. カリキュラム作成委員会は「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員会は関連する学校・関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
- 3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
- 4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会 において検討を行う。
- 5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
- 6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
- 7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の提言を十分に活かしカリキュラム改善等の教育課程の作成を定期 的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年2月1日現在

			3 · P · 20 P
名 前	所 属	任期	種別
包國 友幸 氏	NDO:+ 1 D 7 1 1 1 1 7 1 2 2 3 3 4 7 2 4 3 4 5 4 7 2 4 5 4 7 4 5 4 7 4 5 4 7 4 5 4 7 4 5 4 7 4 5 4 7 4 5 4 7	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	1
樋口 修哉 氏	作う 全 thuma I M 同 か 当 、 当 E	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	3
	- 中 「 1 三	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_
	田門字び日本姓うりフォーツド・プラカル・	令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、1月)

(開催日時(実績))

第23回 令和6年9月26日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分)

第24回 令和7年1月29日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分)

第25回 令和7年9月30日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- 1. 「機能活性プログラムの実施について」
- ・今年も機能活性プログラムの特別授業を1年生1回2年生3回の合計120分×4回の授業を実施することを検討する。
- ・実施時期は1年生が2026年1月以降に1回、2年生が11月初旬から12月中旬に計3回の実施で検討する
- ・日本ストレッチング協会発行の「スポーツストレッチング」を新規テキストとして導入することを検討する。
- 2. 「学内施設(スタジオ トレーニングジム)を使った幼児向けスポーツスクールの集客について
- ・子どもスポーツ専攻の学生が指導者として学べる学内キッズスクールの運営を引き続き連携して進めていく。
- ・集客から指導まで㈱biimaと連携しながら進めていく。SNSでの発信についても助言をもらいながら進める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ関連の多様な企業、団体と連携し、現場で現役として活躍する講師による授業の受講やスポーツイベントの運営を 学ぶ。連携授業を通して、技術・知識の向上を図るとともに「プロの技術」「実際の仕事」に触れることで学生自身の職業観 を確立し、職業選択の結びつけることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

Bリーグ所属「サンロッカーズ」との連携実習では、担当者による事前講習会を経て公式戦運営実習を複数回実施。会場設営、警備、物販、試合運営等を担当者の指導のもとで実践する。

日本ストレッチング協会との連携授業では「機能活性ストレッチ」の演習、実習を受講。徒手抵抗による動きづくりなど高度な手技を学ぶ。連携授業においては受講後学内での成果をディスカッションしレポートを提出、評価とフィードバックを受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

r	科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
	企業連携演習 I	3.【校外】企業内実習	Bリーグ所属「サンロッカーズ渋谷」の公式戦において、会場設	(株)サンロッカーズ
	企業連携演習 I	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	セカンドフィットネススタジオに所属する加圧トレーナーの指導のもと加圧トレーニングの理論を学ぶとともにと実習を行う。通常のレジスタンストレーニングとの効果の違いを体感する。	セカンドフィットネススタジオ
	企業連携演習 Ⅱ	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	日本ストレッチング協会講師のもと 「機能活性プログラム」の理論を学 ぶとともに実習を行い、ストレッチ やトレーニングとは異なる人間が 持っている能力を活性化する手技 を学ぶ。	特定非営利法人 日本ストレッチ ング協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

スポーツ業界においては常に新しいトレーニング方法やトレーニングギアが開発されており、スポーツ用品の販売において も新製品が速いスピードで市場に出回るため、スポーツ学科の教員においても最新の知識を身につける必要があり、その ためには、各企業、団体等の講習会等に教員が定期的に参加する必要があると考える。したがって、教員研修規定に従 い、授業や学生に対する指導上の知識等の修得および授業や学生に対する指導力等の修得・向上のための研修等を定 期的に行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

「健康運動実践指導者主任教員研修」 連携企業等:健康体力づくり事業財団

対象:スポーツ学科教員 期間: 令和7年3月13日(木)

1. 日本人の食事摂取基準について 内容 2. 令和6年度指導実技試験評価の総括

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「ハラスメント防止、不正防止」 連携企業等:東京都人権啓発センター 竹内良

対象: スポーツ学科教員 期間: 令和7年2月21日(水)

内容 障害のある人への差別と対応、およびLGBTQについて

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

「ダンスパフォーマンス向上のためのトレーニング」 連携企業等: RSC MASAMI STUDIO 君原正美 研修名:

期間: 令和8年3月予定 対象:スポーツ学科教員

ダンスジャンルの違い、ダンサーのフィジカルトレーニング、ダンサー向けのコンディショニング法 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等:東京都人権啓発センター 研修名: 「人権研修」

対象: スポーツ学科担当教 員 令和8年2月実施予定 期間:

人権問題の正しい理解と認識 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるかを検証するため学校関係者 評価を原則として年1回実施し、その結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 ガイドラインの評価項目 学校が設定する評価項目 ・理念・目的・育成人材像は、定められているか 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合して (1)教育理念・目標 いるか ・理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか ・社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか ・理念に沿った運営方針を定めているか 理念等を達成するための事業計画を定めているか 設置法人は組織運営を適切に行っているか (2)学校運営 学校運営のための組織を整備しているか 人事・給与に関する制度を整備しているか 意思決定システムを整備しているか 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか ・理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。 ・教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか ・教育課程について、外部の意見を反映しているか キャリア教育を実施しているか ・授業評価を実施しているか ・成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか (3)教育活動 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。 資格・免許取得の指導体制はあるか 資格・要件を備えた教員を確保しているか ・教員の資質向上への取組みを行っているか 教員の組織体制を整備しているか ・就職率の向上が図られているか (4)学修成果 ・資格・免許取得率の向上が図られているか ・卒業生の社会的評価を把握しているか 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ・退学率の低減が図られているか ・学生相談に関する体制を整備しているか ・留学生に対する相談体制を整備しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ・学生の健康管理を行う体制を整備しているか (5)学生支援 ・学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 課外活動に対する支援体制を整備しているか 保護者との連携体制を構築しているか 卒業生への支援体制を整備しているか ・産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んで いるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。 ・教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備して いるか 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備している (6)教育環境 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。

・高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいる。 ・学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか ・入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか ・入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか ・経費内容に対応し、学納金を算定しているか ・入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っている	
・学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか ・学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を 行っているか ・教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定してした。 か ・予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか ・私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施している。 ・私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用してるか	- いる か
・法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行ってか ・学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ・自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ・自己評価結果を公表しているか ・学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか ・学校関係者評価結果を公表しているか ・学校関係者評価結果を公表しているか ・教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	いる
・学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか (10)社会貢献・地域貢献 ・国際交流に取組んでいるか ・学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行ってい	るか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

基準1について

- (1)親が学校にはなかなか行けないのでその都度催しなどのお知らせを頂けると安心して通わせることができると思う。また、昨年の意見を活用していただけている環境は素晴らしい。
- (2)本科卒として経験した立場として、「ゼミ学習」の経験が今の職場で活かされている。ゼミ学習ではいろんな人と話す機会があったので自分の考えを伝えること、相手の考えを聞くことというのを同時にできたので、コミュニケーション力を身に着けることができた。お客様への応対についても複数の答えがあるため社内で会議にて検討する際にも活かされていると感じている。

基準2について

- (1)ここ数年、コロナ禍を経て様々な情報の取扱いについてシビアになってきた。管理者のみ限定で見られるシステムもあるが、管理者じゃない人が管理する個人情報もある。管理者以外の人が管理するときに権限がなくても管理できるようなリストを作るようにしている。学校の場合、特に学生に関する情報、企業に関する情報など取扱いに注意をしなければならない情報が多くなるので今後も取り扱いには注意をしていただきたい。
- (2)データ送信を行う場合、無料のものは使ってはいけないことになっている。また個人情報の研修を全社員が毎年受けている。アレルギーなどの個人情報のやりとりが多いので慎重に扱うようにしている。セキュリティに関する研修などを実施しても良いのではないか。

基準3について

- (1)社会に役立つ人材の育成として、学内だけでやっていては社会から取り残されてしまうため企業と連携することが非常に重要だと思う。高校としても専門学校で企業と連携して実践的な教育を受けられることは保護者に安心して勧められる。このまま継続し、更に連携企業を増やしていただきたい。
- (2)当社では営業利益を上げるための一般社員向けに営業研修、若手向けには接客のための営業基礎研修、管理職向けにはマネジメント研修やハラスメント研修などニーズに合わせて選べる形になっている。1年目、3年目、5年目まではカリキュラムが組まれ、新任管理職は勤怠やハラスメントの研修、長年管理職をされている方は任意で様々な研修から選べるようになっている。役職や勤務年数に応じた研修を導入しても良いかと思う。

基準4について

(2)スポーツ学科

先生方の日々の努力がすばらしいと感じた。学生に意識を高く持たせることの大変さ、机上で勉強しているだけでなく現場でモチベーションを上げることの大変さが伝わった。今後も楽しみにしている。

(3)ビジネス学科

最後の年でJR東海に就職できたり他にも多くのところに就職できたりしているということは、学生の頑張りは当然ですが、先生方のサポートがしっかりしているからだと思います。本当に素晴らしいです。

基準5について

(1)スクールカウンセラーを導入されたということですが、学生目線にたった素晴らしい導入だと思います。

高校生はまだ未熟で担任の先生へ相談はしにくいこともある。本学ではスクールカウンセラーを導入後して5年が経つ。毎回予約でいっぱいになっている。専門学校進学後は悩みも変わってくるとは思うが安心できる学校として選んでもらえると思う。高校では保護者がスクールカウンセラーへ相談するというケースも出てきている。継続してください。

(2)学生の経済的側面に対する支援体制が整備されている点は保護者の立場としてありがたい。他校の推薦などでは入学後に競技を継続してケガなどで続けられず退学に繋がるケースもあると思うが、高校での頑張りを評価するというのは良いと思う。

基準6について

(1)高校の修学旅行は生徒にとって一番の思い出になる。2年次の10月に実施。場所より中身に比重が置かれている。沖縄とベトナムの2か所からの選択制で生徒が選ぶ。希望者人数の関係で全員沖縄になった。本来でしたら海外の文化など経験して視野を広げてもらいたいと思っていたが実現できなかった。保護者にとっても海外は高額になるため保護者の負担を考慮することも重要。本校の場合、1年次から月1~2万円前後を任意で積み立てをしている。今後も継続をしてほしい。

基準7について

(1)SUKI-1グランプリの開催について

入学してくる生徒たちはやりたいことが明確ではなく漠然としている生徒も多い。オープンキャンパスやCMなどをきっかけにSUKI-1を知ってもらって興味を持っていただけたり、不登校の生徒の気持ちの切り替えのきっかけに繋がる。社会貢献という教育的な面も大きいのではないかと思う。引き続き継続してください。

(2)様々な情報提供という観点からはホームページがとても見やすいですし、目を引くものが多い。知りたい情報が探しやすいと感じた。インスタでは運転士用のシミュレータをやっている点が見られるのも面白かった。引き続き発信して欲しいと思いました。

基準8についての自己評価は委員の方々から「適正」であると評価されました

基準9について

(1)本校でも自己評価を実施しこれをホームページに公開しているが、これを実施し、公開している。公開することで第3者の目がある点は抑止力になり、進学先として安心できる。

基準10について

- (1)当社でも今年2月に職場見学会を開催した。社員の家族が対象でたくさんのお子さんが来た。やはりシミュレータが大人気だった。こういった施設の開放やイベントは学生にとって貴重な経験になったと思う。継続してほしい。
- (2)SUKI-1の大会では高校生でも意識が高くレベルが高いと感じた。これからたくさん周知されていくと思う。私たちも周知する仕事が多いが、地方の新聞社やメディアさんヘアピール。その記事を持って高校さんヘアピールするのが良いと思う。高校生は全然テレビを見ないらしく一番有効なのはSNSだと思う。高校生にはTickTockの広報は効果的で良いのではないか?

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
富永 高広氏	│株式会社日本旅行 東京教育旅行営業部 部 │長	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
林 哲治氏	立志舎高等学校 教頭	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	高校関係 者
平澤 精一氏	有限会社井荻スポーツ社 代表取締役	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
藤代 真弘氏	東海旅客鉄道株式会社 新幹線鉄道事業本 部 東京第二運輸所 指導車掌	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
丸茂 茜 氏	ヒロセ電機株式会社 製作本部長室	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・ その他(

https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 令和7年6月20日

URL: 公表時期:

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、 本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(2) 専門学校にあげる情報提供等への取組に関するよう	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・目的、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在学学生数・授業計画表(シラバス)・進級・卒業の要件等・取得資格、検定試験合格等の実績・卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	・教職員数 ・教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況・実習・実技等の取組状況・就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況・課外活動
(6)学生の生活支援	·学生相談室、就職相談室
(7)学生納付金·修学支援	・学生納付金 ・活用できる経済的支援措置
(8)学校の財務	・事業報告書、計算書類、監査報告、財産目録
(9)学校評価	・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ
((11)その他 ※(10)みび(11)については任音記載	•学則

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・ その他(

https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 令和7年7月31日

URL: 公表時期:

授業科目等の概要

	(文化教養専門課程 スポーツ学科パーソナルトレーナーコース) 分類		1			搭	業	方法	授業方法場所							
			_			配当年	授業	単			実験			教		企業等
	必	選択必	自由選	授業科目名	授業科目概要	サンク・	業時	位	講	演	技実	校	校	専	兼	きとの
	修	修	択			学期	数	数	義	習	習・実	内	外	任	任	連携
1	0			一般教養講座 I	非言語分野である一般的な計算(文章 題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力および言語分野、時事問題を 理解する。		40	2	0			0		0		
2	0			一般教養講座 Ⅱ	生活 (文章 題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力を向上させ、言語分野、時事 問題の理解を深める。		60	3	0			0		0		
3		0		就職ゼミナー ル	社会人として必要とされる基本的なものの 見方や考え方・行動の仕方について理解を 深め、礼儀・マナーの修得、面接演習を行う。	2 前	60	3		0		0		0		
4		0		ビジネス文書	ビジネス文書の基本、社内文書の種類と役割、社外文書の種類と役割、社外文書の種類と役割、通信事務、表とグラフの活用等について学ぶ。	2 前	40	2	0			0		0		
5		0		ビジネスマ ナー	職場生活でのルールを理解し、職場の人間 関係、就業中のマナー、服装と身だしな み、話し方の基本を学ぶ。	2 前	40	2	0			0		0		
6		0		表計算ソフト 演習	表計算ソフト「Excel」を使用し入力、修正などの基本的操作から、関数の使い方までを学ぶ。	2 後	40	2		0		0		0		
7		0		文書作成ソフト演習	ワープロソフト「Word」を使用し、文字の入力・修正・編集などの基本操作から 効果的なビジネス文書の作成技法を学ぶ。	2 前	40	2		0		0		0		
8		0		プレゼンテー ションソフト 演習	パワーポイントを利用してプレゼンテーションの企画、作成、発表までを学ぶ	2 後	40	2		0		0		0		
9	0			企業連携演習	スポーツ分野の様々な企業や現場で実際に 活躍している方の講演や実習を特別授業と して受講し、レポートを提出する。 体力測定の結果分析、評価を元にフリー	妆	40	2		0		Δ	0		0	0
10	0			トレーニング 実習 I	ウェイト、各種マシン、自重負荷を用い、 正しいレジスタンストレーニング法を学 び、実践する。 体力測定の結果分析、評価を元にフリー		70	2			0	0		0		
11	0			トレーニング 実習 II	ウェイト、各種マシン、自重負荷、バランスボール、TRX等を用い、目的に合わせたトレーニング法を学び実践する。 スポーツ関連産業やスポーツイベント運営		70	2			0	0		0		
12	0			企業連携演習 II	企業の社員指導の下、現場での仕事を主体 的に体験し、レポートを作成、提出する。 専門学校での学習の集大成として、授業科	2前	40	2		0		Δ	0		0	0
13	0			卒業研究	目・就職先の業界研究など学生がテーマを 考えて論文を作成する。 各講義、及び実習で習得した知識をフィッ	2後	##	8		0		0		0		
14		0		インターン シップ	トネス企業、トレーナー企業、スポーツ系販売企業内での就業体験の場で実践することを目的とする。	1前	40	2		0			0	0		_
15		0		運動障害の予 防	運動に伴う内科的、整形外科的障害について理解を深める。捻挫、疲労骨折、腰椎分離症、熱中症や月経異常の要因、予防法を理解する。傷病者に対する応急処置の実際を習得させる。	1後	20	1	0			0		0	Δ	
16		0		運動生理学	呼吸循環器、骨格筋、神経と運動との関連 の理解を高める。特に筋収縮様式、エネル ギー供給に関する分野の理解を重視し、エ ネルギー代謝の計算法も学ぶ。	1 後	20	1	0			0		0		
17		0		エアロビック 運動の実際 I	エアロビックダンスー連の動作を実習し、 正しいアライメントの習得、心肺持久力、 筋持久力向上を目指す。性別、年齢、体力 差を考慮した安全なプログラムの作成、指 導法を学ぶ。	1 前	35	1			0	0			0	
18		0		エアロビック 運動の実際 II	エアロビックダンスプログラムの作成を行う。またジョギング・ウォーキングにおいては実際に歩行、走行を実習、検証することでそれぞれの特性 効果を理解し、健康づくりのための運動指導に活用できるようにする。	1 後	35	1			0	0			0	
19		0		エアロビック 運動の理論	有酸素性運動をエネルギー供給機構との関 係から理解する。最大酸素摂取量、無酸素 性作業閾値の推定方法を習得する。	1 前	20	1	0			0		0		
20		0		栄養と体重調 節	栄養と健康、スポーツとの関連を理解する。適切な減量を実施するためのエネル ・ 消費量の計算法を習得する。また、競技選手が要の計算法を習得する。また、競技選手が選集を習得する。 知識を習得する。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
21		0		エクササイズ テクニック	柔軟性向上、自重負荷、スタビリティボール、レジスタンス(フリーウェイト、マシン)、有酸素性能力向上の各種トレーニング法の正しい知識を習得する。	1 前	20	1		0		0		0		
22		0		機能的解剖学	骨格筋の分類、構造、特徴と役割を基礎に 人間の代表的な関節(肩関節、脊柱、股関 節、勝関節、足関節)の構造及び各種運動 時、トレーニング時のバイオメカニクスに ついて理解する。	1 前	20	1	0			0		0		
23		0		キャンプ実習 I	テントの設営方法・撤収方法、野外料理の 方法、ローブワーク、キャンプファイヤー の運営、キャンブ道具の使い方等を学ぶと ともに、集団行動でより良い人間関係の構 築を学ぶ。	1 前	35	1			0		0	0		
24		0		健康管理概論	日本人の疾病傾向の変化、生活習慣病への 理解を高める。それを踏まえ運動が健康づ くりに果たす役割を認識し、有酸素運動を 中心とした運動プログラム作成に生かす。	1後	20	1	0			0		0	Δ	
25		0		水泳・水中運 動 I	水による負荷を活かし、水中エアロビクス、補強運動、筋カトレーニングを実習し、その運動強度と効果を理解させる。水 泳においてはクロールと背泳の正しい泳法 の習得を目指す。	1 前	35	1			0		0	0		

26	0	水泳・水中運 動 II	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ パタフライの 基本4泳法の習得を第一目標とし、正しい 泳法の理解と適切な指導法を学習する。	1 後	35	1			0		0	0		
27	0	スノーボード 実習	実習を通してスノーボードの技術を身に付け、JSBAの級別テストを取得するとともに、共同生活を通して団体行動を学ぶ。	1後	35	1			0		0		0	0
28	0	ストレッチン グの理論と実 際	スタティック、バリスティック、ダイナミックストレッチ及びPNFに代表される徒手 抵抗を用いたストレッチ法の意味と効果を 理解し、安全性の高い指導法を習得する。	1前	20	1	0			0		0		
29	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 I	スポーツパフォーマンス向上を目的としス ピードトレーニングの理論及び技術を習得 する。	1前	35	1			0	Δ	0	0		
30	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 II	爆発的パワー獲得のためにブライオメトリ クスの安全で効果的なトレーニングの実施 方法、ブログラミング法を学ぶ。あわせて 競技スポーツとしてのフットサル、パド シುトンの実 技を行う。	1後	70	2			0	Δ	0	0		
31	0	スポーツアイ シング	コンディショニング、応急処置、リハビリテーションの各分野において活用されているアイシングの理論と実際を講義、演習を通して習得する。	1 前	20	1		0		0		0		
32	0	スポーツテー ピング I	テーピング知識と技術を向上させることを 目的とする。ホワイトテープ、伸縮テー ブ、キネシオテープ等を目的別、部位別で 適切に選択、処置できるようにする。	1 後	20	1		0		0		0		
33	0	ダイビングラ イセンス講座	オープンウォーターダイバーライセンス取得を見たし、 禁水の理論と 禁水の理論と	1前	20	1		0		0			0	
34	0	トレーナー指 導演習 I	正しいトレーニング理論を基に第三者に対 する適切なトレーニングプログラムを作成 し、目的別のトレーニング指導が行なえる ようにする。	1 前	20	1		0		0		0		
35	0	トレーナー指導演習II	多様なトレーニングプログラムを作成し、 競技選手に対し実際に指導を行なう。ま た、ストレッチや各種テーピング、アイシ ングの技術を用い選手のコンディショニン グを担当する。	1 後	40	2		0		0		0		
36	0	パーソナルト レーナー演習 I	解剖学、生体エネルギー機構、レジスタンストレーニ ングや有酸素性持久カトレーニングに対する 身体の適応、栄養、心理を総合的に学ぶ。	1 前	60	3		0		0		0		
37	0	パーソナルト レーナー演習 II	パーソナルトレーナーとしてクライアント の健康評価法や施設の安全管理、法的問題、および特定のクライアントに対するト レーニング指導法を学ぶ。	1後	60	3		0		0		0		
38	0	プログラムデ ザイン	レジスタンストレーニング、有酸素性持久 カトレーニング、プライオメトリックおよ びスピードトレーニングのプログラム作成 法を学ぶ。	1後	40	2		0		0		0		
39	0	補強運動の理 論	レジスタンストレーニングの分類とその特 徴を踏まえ、代表的なレジスタンストレー ニングの実施方法、トレーニングプログラ ム作成の基礎を学ぶ。	1前	20	1	0			0		0		
40	0	アウトドアス ポーツ演習	㈱PADDLER JAPANとの連携のもと、スタンドアップパドル(SUP)やアウトリガーカヌーの実習を行う。	2 前	20	1			0		0		0	0
41	0	運動指導の心 理学的基礎	生活習慣病予防のための運動習慣の確立、 競技力向上等、運動者の目的別に適切な動 機付けの方法を理解させる。又、競技者向 けのメンタルトレーニングプログラムの作 成を行う。	2 前	20	1	0			0		0		
42	0	キャンプ実習 II	キャンプ実習を通して、野外活動の直接体 験の不足部分を体験するとともに集団行動 でより良い人間関係を構築する。	2 前	35	1			0		0	0		
43	0	健康運動演習	健康体力作り事業財団認定の健康運動実践 指導者の資格取得を目標とし、下記全分野 の問題演習を行い、理解を深める。	2 前	80	4		0		0		0		
44	0	健康づくりと 運動プログラ ム	健康づくりを目的とする運動プログラム処 方上の原則を種類、強度、時間、頻度の観 点から理解する。特に有酸素運動の重要性 を理解し有効な運動プログラムを作成でき るようにする。	2 後	20	1	0			0		0		
45	0	指導法	受講者の年齢、体カレベル 設定目標に合わせた運動プログラムを作成し、実際に指 物を作う。さらに施設の運営管理法やリス クマネジメントに対する理解を深める。	2 後	80	4		0		Δ	0	0		
46	0	水泳・水中運 動の指導 I	受講者の年齢、体力レベルに合わせた水 泳・水中運動プログラムを作成し、指導を 行う。ウォーミングアップ、筋コンディ ショニング、クロール、背泳の適切な指導 法を学習する。	2 前	20	1		0			0	0		
47	0	水泳・水中運 動の指導 II	受講者の年齢、体カレベルに合わせた水 泳・水中運動プログラムを作成し、指導を 行う。水中ウオーキング、水中レジスタン ス運動、水泳はパタフライ、平泳ぎの指導 法を学習する。	2 後	20	1		0			0	0		
48	0	スポーツ・コ ンディショニ ンク˙実習Ⅲ	ウォーミングアップ、クーリングダウン,プライオメトリックトレーニン グ、スピードトレーニンダのプログラムを組み、実際に指導できるようにする。また、競技スポーツとしてソフトボール、卓球の実習を行う。	2 前	70	2			0	Δ	0	0		
49	0	スポーツテー ピング II	キネシオロジーテーブの特徴である接着、 被覆、伸縮を理解し、目的別、部位別、症 状別のキネシオロジーテーピング法を学 ぶ。	2 前	20	1		0		0		0		
50	0	スポーツマッ サージ	スポーツマッサージ技術の習得を目的とする。怪我の予防、疲労回復、競技力向上等を目的とした各種マッサージ技術の演習を行うと共に生理学的理論も身に付ける。	2 後	20	1		0		0		0		
51	0	体力測定と評 価	新体力テストに準じ正しく身体能力の測定、評価できるようにする。体組成の測定を皮下脂肪厚計、BIA法等、機器を用いて行えるようにする。	2 前	20	1	0			0		0		
52	0	トレーナー指 導演習Ⅲ	学生自らが担当する競技選手に対し年間トレーニング計画を立案し指導、検証を行う。また、新人学生トレーナーに対する指導を併せて行い自らの知識、技術のレベルアップを図る。	2 前	40	2		0		0		0		

53	C		トレーナー指導演習IV	担当選手の身体的成長を客観的に評価し、 実施してきたプログラムの成果を分析、次 年度のトレーニング計画に活用できるデー タを残す。後進の学生トレーナーに対する 指導を進める。	2 後	20	1	С		0		0		
54	c		トレーニング 実習Ⅲ	体力測定の結果分析、評価を元にトレーニ ングプログラム作成法を確立する。尚、^^> オプレス・スクワット・デッドリフトに関しては1RM挙 上値の更新を目指し、パワーエクササイズ にも挑戦する。	2 前	35	1		0	0		0		
55	C)	¬□ 223 πτ	習得した各種トレーニング法を元に第3者 に対して対象別、目的別プログラムを第三 者へ提供、指導する。指導前のかかりか、か が 5kの提供までを実体験する。また、各種 日においては最大学上値の更新を目指す。	2	35	1		0	0		0		
		合	計	55	科	·目			92	単位	й (.	単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	F
卒業要件: 成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 学科として履修科目が決定している。	1 学期の授業期間	20 週

図修方法: 学科として履修科目が決定している。 1学期の授業期間 (留意事項) 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

市田学はロナダゲ		設置認可名	年月日	校長名			所在地					
専門学校日本鉄道。 ツビジネスカレッ		平成9年10)月1日	吉野 充利	〒 (住所)	130-8565 東京都墨田区太平2-	-3-2					
設置者名	-	設立認可	年月日	代表者名	(電話)	03-3624-5444	所在地					
学校法人立志	舎	平成10年10)月30日	塚原 一功	〒 (住所)	130-8565 東京都墨田区錦糸1-	-2-1					
分野		認定課程名	認定	学科名		03-3624-5441 門士認定年度	高度専門士認定	2年度 職業	実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化	:教養専門課程		-ツ学科 レーナーコース	平原	戊12(2000)年度	-		平成26(2014)年度			
	教育基本流的とする。	去および学校教育活			ネスおよび-	一般教養に関する正しい	知識を身につけ、日本	□	献できる人材の育成を目			
		動実践指導者 NSCAパーソナルトレーナー JATIトレーニング指導者 運動あそび指導士 日本漢字能力シャリスト等					糞字能力検定 ビジネス能力検定 を		パス マイクロソフトオフィ			
修業年限	昼夜		必要な総授業時数又 単位数	講義 演習 実		実習	実験	実技				
2	昼間	※単位時間、単位いず かに記入	10			630 単位時間 一 単位	一 単位時間 一 単位	一 単位時間一 単位				
生徒総定員	生徒爭	定員(A) 留学	生数(生徒実員の内数)(中退率		74	74			
120 人	8	Д	0 人	() %	0 %						
	■卒業者	数 (C)	:	0	人	-						
	■就職希 ■就職者	望者数 (D) 数 (E)		0	<u> </u>	-						
	■地元就	職者数(F)		0	Ţ	- -						
	■就職率 ■就職者	<u>(E/D)</u> に占める地元就職:		0	%	-						
				0	%	=						
		こ占める就職者の割		0	%	_						
	■進学者 ■その他			0	人	_						
	_ ()											
	(令和	6 年度卒	業者に関する令和7年5	月1日時点の情報)								
		職先、業界等		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,								
	(令和6年度	卒業生)										
	新設コース	スのため該当者な	:L									
	■民間の	評価機関等から第	第三者評価:			無						
第三者による		、例えば以下につい										
学校評価		評価団体: -		受審年月:	_	第二名による ここの ことの ここの ここの ここの ことの こと						
ルギーサーの								_				
当該学科の							画編末を掲載した ームページURL					
ホームページ	https://w	ww.nihonschool21	.ac.jp/									
ホームページ URL	https://w	ww.nihonschool21	.ac.jp/									
		ww.nihonschool21 立時間による算定)	.ac.jp/									
			.ac.jp/					2,130 単位時	no e			
		立時間による算定) 総授業時数	.ac.jp/ .ac.jp/ 業等と連携した実験					2,130 単位時 105 単位時				
		z時間による算定) 総授業時数 うち企		・実習・実技の授乳								
		立時間による算定) 総授業時数 うち企:	業等と連携した実験	・実習・実技の授乳				105 単位時	間			
		立時間による算定) 総授業時数 うち企:	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数	・実習・実技の授乳	業時数	**************************************		105 単位時 340 単位時	間 間 			
		立時間による算定) 総授業時数 うち企:	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携	・実習・実技の授9 D授業時数	業時数 ・実習・実技	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時	作 作 作 作			
		本時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携	・実習・実技の授乳 力授業時数 携した必修の実験 携した必修の演習の	業時数 ・実習・実技 D授業時数	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 0 単位時	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況		本時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授乳 力授業時数 携した必修の実験 携した必修の演習の	業時数 ・実習・実技 D授業時数	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 0 単位時 80 単位時	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した	(A:単位	本時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授乳 力授業時数 携した必修の実験 携した必修の演習の	業時数 ・実習・実技 D授業時数	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 0 単位時 80 単位時	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企うち企うち企うち必 (うち:	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 企業等と連携したイン	・実習・実技の授乳 力授業時数 馬した必修の実験 馬した必修の演習の カラファップの計	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 0 単位時 80 単位時	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企うち企うち企うち必 (うち:	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授乳 力授業時数 馬した必修の実験 馬した必修の演習の カラファップの計	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 0 単位時 80 単位時 40 単位時	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 企業等と連携したイン	・実習・実技の授業 D授業時数 携した必修の実験 携した必修の演習の レターンシップの打 ・実習・実技の単位	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 - 単位 - 単位 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 企業等と連携したイン	・実習・実技の授業 D授業時数 携した必修の実験 携した必修の演習の レターンシップの打 ・実習・実技の単位	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	**************************************		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 - 単位 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携	・実習・実技の授金の登録を表した必修の実験を表した必修の実験を表した必修の演習のシターンシップの表	業時数 ・実習・実法 か授業時数 の受業時数 か立数	なの授業時数		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 - 単位 - 単位 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	2時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授金の登録を表した必修の実験を表した必修の実験を表した必修の演習のシターンシップの表 ・実習・実技の単位の単位数	業時数 ・実習・実力を要素時数) ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を変	なの授業時数		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位時 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	2時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携	・実習・実技の授金の登録を表した必修の実験を表した必修の実験を表した必修の演習のシターンシップの表 ・実習・実技の単位の単位数	業時数 ・実習・実力を要素時数) ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を変	なの授業時数		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	2時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授金の登録を表した必修の実験を表した必修の実験を表した必修の演習のシターンシップの表 ・実習・実技の単位の単位数	業時数 ・実習・実力を要素時数) ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を変	なの授業時数		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位時 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち) 総単位数 うち企 うち企 うち企 うち必 (うち)	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授業の授業の授業の対象を表した必修の実験を表した必修の実験を表した必修の演習のシターンシップの表も実践の単位数を表した必修の実験を表した必修の演習のシターンシップの意	業時数 ・実習・実力を要素時数) ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を要素的数 ・実習・実力を変	なの授業時数		105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位時 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち必 (うち:	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携 で業等と連携したへ	・実習・実技の授乳の授業時数	集時数 ・実習・実別・実別・実別・実別・実別・実別・実別・実別・実別・実別・実別・実力単位数)	次の授業時数	-A~-YURL	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 -	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち企 (うち: での担数 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 うち企業等と連携	・実習・実技の授乳の授業時数	楽時数 ・実習・実技の受業時数) ・実習・実技の受業時数) ・実習・実技の受業的数) ・実習・実技の単位数	なの授業時数	-A~-YURL	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位時 - 単位	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち必 (うち: 総単位数 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企 うち企	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携 うち企業等と連携 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	・実習・実技の授乳の授業時数	楽時数 ・実習・実技の受業時数) ・実習・実技の受業時数) ・実習・実技の受業的数) ・実習・実技の単位数	次の授業時数	-A~-YURL	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 -	767 769 769 769			
URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち企 (うち: での担数 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・実習・実技の授乳の授業時数	果時数 ・実習・実技 ・実習・実技 ・受業時数 ・変響・数 ・変形 ・変形 ・変形 ・変形 ・変形 ・変形 ・変形 ・変形 ・変形 ・変	次の授業時数	第1号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 -	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち) 総単位数 うち企 うち企 うちか (うち) (うち) (うち) (うち) (うち) (うち) (うち) (うち)	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン うち企業等と連携したイン 業等と連携した実験 事単位数 うち企業等と連携した演習の が単位数 うち企業等と連携した演習の が単位数 うち企業等と連携した大きである。 で業等と連携した大きである。 で業等と連携した大きである。 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 で業等と連携したが、 でまずと連携が、 でまずと連携が、 でまずと連携が、 でまずと連携が、 でまずと連携が、 でまずとが、 でまずとが、 でまずとが、 でまずとが、 でまずとが、 でまずとが、 でまずとが、 でまずとが、 できずとが、 できずとが、 できが、 でが、 でき	・実習・実技の授乳の授業時数	業時数 ・実習・実技の受業時数 ・支援を対して、 ・実習・実技の受業時数 ・実習・実技の単位数 ・実習・実技の単位数 ・実習・実技の単位数	本 たの授業時数 をの単位数 学校設置基準第41条第1項	ームページURL 第1号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うち必 (うち: でも では数 でも では数 でも では数 でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン 主要等と連携したイン 業等と連携した実験 変等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したイン では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・実習・実技の授乳の授業時数	東習・実対 ・実習・実対 の授業時数) 立数 ・実習・実対 の単位数) (専修等 (専修等	本 たの授業時数 たの単位数 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	ームページURL 第1号) 第2号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち必 (うち: 2) 総単位数 うち企 うち必 (うち: ででは数 うち企 (うち: ででは数 (うち: ででする限さ者 (うち: ででする限さ者 (うち: ででする限さ者 (のを) でででする限さ者 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) ででする。 (の) でででする。 (の) (の) でででする。 (の) (の) (の) () () () () () () () () () (業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン 主要等と連携したイン 業等と連携した実験 変等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したイン では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・実習・実技の授乳の授業時数	集時数 ・実習・実技 の受業時数 ・実性位数 ・実性位数 の単位数 (専修等 ・等等	なの授業時数 なの提集時数 をの単位数 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 -	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 (うち: 放数による算定) 総単位数 うち企 (うち: のも数と ででは数 ででは数 ででする限さる。 ででは数でする限さる。 ででは数でする限さる。 ででは数でする限さる。 ででは数による。 ででは数による。 ででは数による。 ででは数による。 でではな数による。 でではな数とする。 でではな数による。 でではな数とする。 でではな数による。 ででではな数による。 でではな数による。 でではな数による。 ででではな数による。 でではな数による。 でではな数による。 でではな数による。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 ででする。 でではなる。 でですではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でですでなな。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でですな。 でではな。 でではなる。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 ででは、 でではな。 ででは、 でではな。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン 主要等と連携したイン 業等と連携した演習の 修理位数 うち企業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携したイン では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	・実習・実技の授乳の授業時数	集時数 ・実習・実技 の受業時数 ・実性位数 ・実性位数 の単位数 (専修等 ・等等	たの授業時数 たの授業時数 をの単位数 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 1 人 2 人 0 人 1 人	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち必 (うち: 2) 総単位数 うち企 うち必 (うち: ででは数 うち企 (うち: ででは数 (うち: ででする限さ者 (うち: ででする限さ者 (うち: ででする限さ者 (のを) でででする限さ者 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする限さる。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) でででする。 (の) ででする。 (の) でででする。 (の) (の) でででする。 (の) (の) (の) () () () () () () () () () (業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン 主要等と連携したイン 業等と連携した演習の 修理位数 うち企業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携したイン では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	・実習・実技の授乳の授業時数	集時数 ・実習・実技 の受業時数 ・実性位数 ・実性位数 の単位数 (専修等 ・等等	なの授業時数 なの提集時数 をの単位数 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 -	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うち企 うち企 (うち: 放数による算定) 総単位数 うち企 (うち: のも数と ででは数 ででは数 ででする限さる。 ででは数でする限さる。 ででは数でする限さる。 ででは数でする限さる。 ででは数による。 ででは数による。 ででは数による。 ででは数による。 でではな数による。 でではな数とする。 でではな数による。 でではな数とする。 でではな数による。 ででではな数による。 でではな数による。 でではな数による。 ででではな数による。 でではな数による。 でではな数による。 でではな数による。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 ででする。 でではなる。 でですではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でですでなな。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でではなる。 でですな。 でではな。 でではなる。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 でではな。 ででは、 でではな。 ででは、 でではな。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携したイン 主要等と連携したイン 業等と連携した演習の 修理位数 うち企業等と連携した演習の 修単位数 うち企業等と連携したイン では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	・実習・実技の授乳の授業時数	集時数 ・実習・実技 の受業時数 ・実性位数 ・実性位数 の単位数 (専修等 ・等等	なの授業時数 なの提集時数 をの単位数 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 1 人 2 人 0 人 1 人	767 769 769 769			
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による算定) 総授業時数 うち企 うちか (うち: 2数による算定) 総単位数 うち企 うちか (うち: でうちか) (うち: でうちか) (うち: でうちか) (うち: でうちか) (うち: でする限さ者 でする限さ者 でする限さ者 でする限さ者 でする限さ者 でするでするでする。 (うち: できるでするでする。 できるでするでする。 できるでするでする。 できない。 できるでするでする。 できるでするでする。 できるでするでする。 できるでするでする。 できるでするでする。 できるでするです。 できるでするでする。 できるでするでする。 できるでするでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするです。 できるでするできるです。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	業等と連携した実験 業等と連携した演習の 修授業時数 うち企業等と連携 うち企業等と連携したイン 業等と連携した大実験 修単位数 うち企業等をと連携した演習の 修単位数 うち企業等等ととまた うち企業等をと連携した演習の 修単では、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	・実習・実技の授乳の授業時数 した必修の実験 した必修の実験 した必修の演習の シターンシップの社 ・実習・実技の単位 の単位数 した必修の実験 した必修の実験 した必修の実験 にした必修の実験 にした必修の方面 でで、を通算して大	東晋・実習・実力 ・実習・実数 ・実者等数 ・実質を ・実性位数 ・実性位数 ・実体 ・実体 ・実体 ・実体 ・実体 ・実体 ・実体 ・実体	なの授業時数 なの提集時数 をの単位数 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第5号)	105 単位時 340 単位時 80 単位時 80 単位時 40 単位時 40 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 1 人 2 人 0 人 1 人	767 769 769 769			

- 1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

企業・業界団体等との連携により、職務等の遂行に必要となる最新の知識・技術・技能の修得のため、トレーナー業界、ス ポーツジム、スポーツ用品取扱店など、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび現状のスポーツ 関連業界に即した実習を含め授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- 1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。教育課程編成委員会は 業界関係者、有識者および学園職員で構成する。
- 2. カリキュラム作成委員会は「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員 会は関連する学校・関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
- 3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
- 4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会 において検討を行う。
- 5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
- 6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
- 7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の提言を十分に活かしカリキュラム改善等の教育課程の作成を定期 的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

今和7年2月1日現在

名 前	所属	任期	種別
包國 友幸 氏		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	1
樋口 修哉 氏		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	3
		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	-
		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載するこ یے

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、1月)

(開催日時(実績))

第23回 令和6年9月26日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分)

第24回 令和7年1月29日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分)

第25回 令和7年9月30日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- 1. 「機能活性プログラムの実施について」
- ・今年も機能活性プログラムの特別授業を1年生1回 2年生3回の合計120分×4回の授業を実施することを検討する。
- ・実施時期は1年生が2026年1月以降に1回、2年生が11月初旬から12月中旬に計3回の実施で検討する
- ・日本ストレッチング協会発行の「スポーツストレッチング」を新規テキストとして導入することを検討する。
- 2. 「学内施設(スタジオ トレーニングジム)を使った幼児向けスポーツスクールの集客について
- ・子どもスポーツ専攻の学生が指導者として学べる学内キッズスクールの運営を引き続き連携して進めていく。
- ・集客から指導まで(株)biimaと連携しながら進めていく。SNSでの発信についても助言をもらいながら進める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ関連の多様な企業、団体と連携し、現場で現役として活躍する講師による授業の受講やスポーツイベントの運営を 学ぶ。連携授業を通して、技術・知識の向上を図るとともに「プロの技術」「実際の仕事」に触れることで学生自身の職業観 を確立し、職業選択の結びつけることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

Bリーグ所属「サンロッカーズ」との連携実習では、担当者による事前講習会を経て公式戦運営実習を複数回実施。会場設営、警備、物販、試合運営等を担当者の指導のもとで実践する。

日本ストレッチング協会との連携授業では「機能活性ストレッチ」の演習、実習を受講。徒手抵抗による動きづくりなど高度な手技を学ぶ。連携授業においては受講後学内での成果をディスカッションしレポートを提出、評価とフィードバックを受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
企業連携演習 I		Bリーグ所属「サンロッカーズ渋谷」の公式戦において、会場設営、進行補助、グッズ販売、警備、誘導等プロスポーツイベントの運営を実際に学ぶ。	(株)サンロッカーズ
企業連携演習 I	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	セカンドフィットネススタジオに所属する加圧トレーナーの指導のもと加圧トレーニングの理論を学ぶとともにと実習を行う。通常のレジスタンストレーニングとの効果の違いを体感する。	セカンドフィットネススタジオ
企業連携演習 II	1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	日本ストレッチング協会講師のもと「機能活性プログラム」の理論を学ぶとともに実習を行い、ストレッチやトレーニングとは異なる人間が持っている能力を活性化する手技を学ぶ。	特定非営利法人 日本ストレッチング協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

スポーツ業界においては常に新しいトレーニング方法やトレーニングギアが開発されており、スポーツ用品の販売において も新製品が速いスピードで市場に出回るため、スポーツ学科の教員においても最新の知識を身につける必要があり、その ためには、各企業、団体等の講習会等に教員が定期的に参加する必要があると考える。したがって、教員研修規定に従 い、授業や学生に対する指導上の知識等の修得および授業や学生に対する指導力等の修得・向上のための研修等を定 期的に行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

「健康運動実践指導者主任教員研修」 連携企業等:健康体力づくり事業財団

期間: 令和7年3月13日(木) 対象:スポーツ学科教員

1. 日本人の食事摂取基準について 内容 2. 令和6年度指導実技試験評価の総括

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「ハラスメント防止、不正防止」 連携企業等:東京都人権啓発センター 竹内良

令和7年2月21日(水) 対象:スポーツ学科教員 期間:

障害のある人への差別と対応、およびLGBTQについて 内容

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

「ダンスパフォーマンス向上のためのトレーニング」 連携企業等: RSC MASAMI STUDIO 君原正美 研修名:

期間: 令和8年3月予定 対象:スポーツ学科教員

ダンスジャンルの違い、ダンサーのフィジカルトレーニング、ダンサー向けのコンディショニング法 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等:東京都人権啓発センター 「人権研修」 研修名:

対象: スポーツ学科担当教 対象: _員 期間: 令和8年2月実施予定

人権問題の正しい理解と認識 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるかを検証するため学校関係者評価を原則として年1回実施し、その結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 ガイドラインの評価項目 学校が設定する評価項目 ・理念・目的・育成人材像は、定められているか 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合して (1)教育理念・目標 いるか ・理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか ・社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか ・理念に沿った運営方針を定めているか 理念等を達成するための事業計画を定めているか 設置法人は組織運営を適切に行っているか (2)学校運営 学校運営のための組織を整備しているか 人事・給与に関する制度を整備しているか 意思決定システムを整備しているか 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか ・理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。 ・教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか ・教育課程について、外部の意見を反映しているか キャリア教育を実施しているか ・授業評価を実施しているか ・成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか (3)教育活動 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。 資格・免許取得の指導体制はあるか 資格・要件を備えた教員を確保しているか ・教員の資質向上への取組みを行っているか 教員の組織体制を整備しているか ・就職率の向上が図られているか (4)学修成果 ・資格・免許取得率の向上が図られているか ・卒業生の社会的評価を把握しているか 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ・退学率の低減が図られているか ・学生相談に関する体制を整備しているか ・留学生に対する相談体制を整備しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ・学生の健康管理を行う体制を整備しているか (5)学生支援 ・学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 課外活動に対する支援体制を整備しているか 保護者との連携体制を構築しているか 卒業生への支援体制を整備しているか ・産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んで いるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。 ・教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備して いるか 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備している (6)教育環境 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。

(7)学生の受入れ募集	・高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか・学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか・入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか・入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか・経費内容に対応し、学納金を算定しているか・入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか
(8)財務	 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9)法令等の遵守	・法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか ・学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか・自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか・自己評価結果を公表しているか・学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか・学校関係者評価結果を公表しているか・教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10)社会貢献·地域貢献	・学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか・国際交流に取組んでいるか・学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
((11)国際交流 ※(10)みが(11)については仏音記載	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

基準1について

- (1)親が学校にはなかなか行けないのでその都度催しなどのお知らせを頂けると安心して通わせることができると思う。また、昨年の意見を活用していただけている環境は素晴らしい。
- (2)本科卒として経験した立場として、「ゼミ学習」の経験が今の職場で活かされている。ゼミ学習ではいろんな人と話す機会があったので自分の考えを伝えること、相手の考えを聞くことというのを同時にできたので、コミュニケーション力を身に着けることができた。お客様への応対についても複数の答えがあるため社内で会議にて検討する際にも活かされていると感じている。

基準2について

- (1)ここ数年、コロナ禍を経て様々な情報の取扱いについてシビアになってきた。管理者のみ限定で見られるシステムもあるが、管理者じゃない人が管理する個人情報もある。管理者以外の人が管理するときに権限がなくても管理できるようなリストを作るようにしている。学校の場合、特に学生に関する情報、企業に関する情報など取扱いに注意をしなければならない情報が多くなるので今後も取り扱いには注意をしていただきたい。
- (2)データ送信を行う場合、無料のものは使ってはいけないことになっている。また個人情報の研修を全社員が毎年受けている。アレルギーなどの個人情報のやりとりが多いので慎重に扱うようにしている。セキュリティに関する研修などを実施しても良いのではないか。

基準3について

1エナンニング く

- (1)社会に役立つ人材の育成として、学内だけでやっていては社会から取り残されてしまうため企業と連携することが非常に重要だと思う。高校としても専門学校で企業と連携して実践的な教育を受けられることは保護者に安心して勧められる。このまま継続し、更に連携企業を増やしていただきたい。
- (2)当社では営業利益を上げるための一般社員向けに営業研修、若手向けには接客のための営業基礎研修、管理職向けにはマネジメント研修やハラスメント研修などニーズに合わせて選べる形になっている。1年目、3年目、5年目まではカリキュラムが組まれ、新任管理職は勤怠やハラスメントの研修、長年管理職をされている方は任意で様々な研修から選べるようになっている。役職や勤務年数に応じた研修を導入しても良いかと思う。

基準4について

(1)鉄道・トラベル学科

検定実績・就職実績が高く素晴らしく。ゼミ学習の成果だと思います。また先生方の親切・丁寧な指導の賜物だと感じました。引き続き継続してください。

(2)スポーツ学科

先生方の日々の努力がすばらしいと感じた。学生に意識を高く持たせることの大変さ、机上で勉強しているだけでなく現場でモチベーションを上げることの大変さが伝わった。今後も楽しみにしている。

(3)ビジネス学科

最後の年でJR東海に就職できたり他にも多くのところに就職できたりしているということは、学生の頑張りは当然ですが、先 生方のサポートがしっかりしているからだと思います。本当に素晴らしいです。

基準5について

(1)スクールカウンセラーを導入されたということですが、学生目線にたった素晴らしい導入だと思います。

高校生はまだ未熟で担任の先生へ相談はしにくいこともある。本学ではスクールカウンセラーを導入後して5年が経つ。毎回予約でいっぱいになっている。専門学校進学後は悩みも変わってくるとは思うが安心できる学校として選んでもらえると思う。高校では保護者がスクールカウンセラーへ相談するというケースも出てきている。継続してください。

(2)学生の経済的側面に対する支援体制が整備されている点は保護者の立場としてありがたい。他校の推薦などでは入 学後に競技を継続してケガなどで続けられず退学に繋がるケースもあると思うが、高校での頑張りを評価するというのは良 いと思う。

基準6について

(1)高校の修学旅行は生徒にとって一番の思い出になる。2年次の10月に実施。場所より中身に比重が置かれている。沖縄とベトナムの2か所からの選択制で生徒が選ぶ。希望者人数の関係で全員沖縄になった。本来でしたら海外の文化など経験して視野を広げてもらいたいと思っていたが実現できなかった。保護者にとっても海外は高額になるため保護者の負担を考慮することも重要。本校の場合、1年次から月1~2万円前後を任意で積み立てをしている。今後も継続をしてほしい。

基準7について

___ (1)SUKI-1グランプリの開催について

入学してくる生徒たちはやりたいことが明確ではなく漠然としている生徒も多い。オープンキャンパスやCMなどをきっかけにSUKI-1を知ってもらって興味を持っていただけたり、不登校の生徒の気持ちの切り替えのきっかけに繋がる。社会貢献という教育的な面も大きいのではないかと思う。引き続き継続してください。

(2)様々な情報提供という観点からはホームページがとても見やすいですし、目を引くものが多い。知りたい情報が探しやすいと感じた。インスタでは運転士用のシミュレータをやっている点が見られるのも面白かった。引き続き発信して欲しいと思いました。

基準8についての自己評価は委員の方々から「適正」であると評価されました

基準9について

(1)本校でも自己評価を実施しこれをホームページに公開しているが、これを実施し、公開している。公開することで第3者の目がある点は抑止力になり、進学先として安心できる。

基準10について

(1)当社でも今年2月に職場見学会を開催した。社員の家族が対象でたくさんのお子さんが来た。やはりシミュレータが大人気だった。こういった施設の開放やイベントは学生にとって貴重な経験になったと思う。継続してほしい。

(2)SUKI-1の大会では高校生でも意識が高くレベルが高いと感じた。これからたくさん周知されていくと思う。私たちも周知する仕事が多いが、地方の新聞社やメディアさんヘアピール。その記事を持って高校さんヘアピールするのが良いと思う。高校生は全然テレビを見ないらしく一番有効なのはSNSだと思う。高校生にはTickTockの広報は効果的で良いのではないか?

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
富永 高広氏	株式会社日本旅行 東京教育旅行営業部 部 長	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
林 哲治氏	立志吉高寺学校 教題	31日(1年)	高校関係 者
平澤 精一氏	1万(0 4) 7+ H xi, 7 + W 17+ 4; + 10 xi 2;	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
藤代 真弘氏		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
丸茂 茜 氏	ヒロセ電機株式会社 製作本部長室	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ 広報誌等の刊行物・その他(URL: https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 公表時期: 令和7年6月20日))

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、 本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(2) 専門学校にあげる情報提供等への取組に関する。 ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・目的、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在学学生数・授業計画表(シラバス)・進級・卒業の要件等・取得資格、検定試験合格等の実績・卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	・教職員数 ・教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 ・実習・実技等の取組状況 ・就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況・課外活動
(6)学生の生活支援	·学生相談室、就職相談室
(7)学生納付金·修学支援	・学生納付金 ・活用できる経済的支援措置
(8)学校の財務	・事業報告書、計算書類、監査報告、財産目録
(9)学校評価	・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ
((11)その他 ※(10)みび(11)については任音記載	•学則

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・ その他(

https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 令和7年7月31日

URL: 公表時期:

授業科目等の概要

		文化 分類	教養	専門課程 スポ	ボーツ学科フィットネストレーナーコース) 				超	受業ス	片注	悒	所	教	8	
						配当	授	単			実験					企業
	必	選択必	自由選	授業科目名	授業科目概要	年 次	業時	位	講	演	技実	校	校	専	兼	等との
	修	修	択			学期	数	数	義	習	習・実	内	外	任	任	連携
1	0			一般教養講座 I	非言語分野である一般的な計算(文章 題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力および言語分野、時事問題を 理解する。	1 前	40	2	0			0		0		
2	0			一般教養講座 II	非言語分野である一般的な計算 (文章題)・図形・空間把握・判断推理を学び、数的処理能力を向上させ、言語分野、時事問題の理解を深める。	1後	60	3	0			0		0		
3		0		就職ゼミナー ル	社会人として必要とされる基本的なものの 見方や考え方・行動の仕方について理解を 深め、礼儀・マナーの修得、面接演習を行 う。	2 前	60	3		0		0		0		
4		0		ビジネス文書	ビジネス文書の基本、社内文書の種類と役割、社外文書の種類と役割、通信事務、表とグラフの活用等について学ぶ。	2 前	40	2	0			0		0		
5		0		ビジネスマ ナー	職場生活でのルールを理解し、職場の人間 関係、就業中のマナー、服装と身だしな み、話し方の基本を学ぶ。	2 前	40	2	0			0		0		
6		0		表計算ソフト 演習	表計算ソフト「Excel」を使用し入 カ、修正などの基本的操作から、関数の使 い方までを学ぶ。	2 後	40	2		0		0		0		
7		0		文書作成ソフト演習	ワープロソフト「Word」を使用し、文字の入力・修正・編集などの基本操作から 効果的なビジネス文書の作成技法を学ぶ。	2 前	40	2		0		0		0		
8		0		プレゼンテー ションソフト 演習	パワーポイントを利用してプレゼンテーションの企画、作成、発表までを学ぶ	2 後	40	2		0		0		0		
9	0			企業連携演習 I	スポーツ分野の様々な企業や現場で実際に 活躍している方の講演や実習を特別授業と して受講し、レポートを提出する。 体力測定の結果分析、評価を元にフリー	1 後	40	2		0		Δ	0		0	0
10	0			トレーニング 実習 I	ウェイト、各種マシン、自重負荷を用い、 正しいレジスタンストレーニング法を学び、実践する。 体力測定の結果分析、評価を元にフリー	1 前	70	2			0	0		0		
11	0			トレーニング 実習 II	ウェイト、各種マシン、自重負荷、バランスボール、IRX等を用い、目的に合わせたトレーニング法を学び実践する。	1 後	70	2			0	0		0		
12	0			企業連携演習 II	スポーツ関連産業やスポーツイベント運営 企業の社員指導の下、現場での仕事を主体 的に体験し、レポートを作成、提出する。	2 前	40	2		0		Δ	0		0	0
13	0			卒業研究	専門学校での学習の集大成として、授業科目・就職先の業界研究など学生がテーマを考えて論文を作成する。	2 後	##	8		0		0		0		
14		0		インターン シップ	各講義、及び実習で習得した知識をフィットネス企業、トレーナー企業、スポーツ系販売企業内での就業体験の場で実践することを目的とする。	1 前	40	2		0			0	0		
15		0		運動障害の予 防	運動に伴う内科的、整形外科的障害につい て理解を深める。捻挫、疲労骨折、腰椎分 離症、熱中症や月経異常の要因、予防法を 理解する。傷病者に対する応急処置の実際 を習得させる。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
16		0		運動生理学	呼吸循環器、骨格筋、神経と運動との関連 の理解を高める。特に筋収縮様式、エネル ギー供給に関する分野の理解を重視し、エ ネルギー代謝の計算法も学ぶ。	1 後	20	1	0			0		0		
17		0		エアロビック 運動の実際 I	エアロビックダンスー連の動作を実習し、 正しいアライメントの習得、心肺持久力、 筋持久力向上を目指す。性別、年齢、体力 差を考慮した安全なプログラムの作成、指 導法を学ぶ。	1 前	35	1			0	0			0	
18		0		エアロビック 運動の実際 II	エアロビックダンスプログラムの作成を行 う。またジョギング・ウォーキングにおい ては実際に歩行、走行を実習、検証するこ とでそれぞれの特性 効果を理解し、健康 づくりのための運動指導に活用できるよう にする。	1 後	35	1			0	0			0	
19		0		エアロビック 運動の理論	有酸素性運動をエネルギー供給機構との関係から理解する。最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値の推定方法を習得する。	1 前	20	1	0			0		0		
20		0		栄養と体重調 節	栄養と健康、スポーツとの関連を理解する。適切な減量を実施するためのエネルギー消費量の計算法を習得する。また、競技選手対象の栄養摂取法、調理法について知識を習得する。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
21		0		エクササイズ テクニック	柔軟性向上、自重負荷、スタビリティボール、レジスタンス(フリーウェイト、マシン)、有酸素性能力向上の各種トレーニング法の正しい知識を習得する。	1 前	20	1		0		0		0		
22		0		企業実務演習 I	キッズスポーツスクール運営企業やヨガス タジオ、フィットネスクラブ運営企業と連 携し、学内施設や企業内にて実務の基礎を 学ぶ。	1 前	20	1		0		0			0	0
23		0		企業実務演習 II	キッズスポーツスクール運営企業やヨガス タジオ、フィットネスクラブ運営企業と連 携し、学内施設や企業内にて学んだ基礎を 指導に活用する。	1後	40	2		0		0			0	0
24		0		機能的解剖学	骨格筋の分類、構造、特徴と役割を基礎に 人間の代表的な関節(肩関節、脊柱、股関 節、膝関節、足関節)の構造及び各種運動 時、トレーニング時のパイオメカニクスに ついて理解する。	1 前	20	1	0			0		0		
25		0		キャンプ実習 I	テントの設営方法・撤収方法、野外料理の 方法、ローブワーク、キャンブファイヤー の運営、キャンブ道具の使い方等を学ぶと ともに、集団行動でより良い人間関係の構 築を学ぶ。	1 前	35	1			0		0	0		

26	0	健康管理概論	日本人の疾病傾向の変化、生活習慣病への 理解を高める。それを踏まえ運動が健康づ くりに果たす役割を認識し、有酸素運動 中心とした運動プログラム作成に生かす。	1 後	20	1	0			0		0	Δ	
27	0	水泳・水中運 動 I	水による負荷を活かし、水中エアロビクス、補強運動、筋カトレーニングを実習し、その運動強度と効果を理解させる。水 泳においてはクロールと背泳の正しい泳法の習得を目指す。	1	35	1			0		0	0		
28	0	水泳・水中運 動 II	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ パタフライの 基本4泳法の習得を第一目標とし、正しい 泳法の理解と適切な指導法を学習する。	1後	35	1			0		0	0		
29	0	スノーボード 実習	実習を通してスノーボードの技術を身に付け、JSBAの級別テストを取得するとともに、共同生活を通して団体行動を学ぶ。	1 後	35	1			0		0		0	0
30	0	ストレッチン グの理論と実 際	スタティック、バリスティック、ダイナミックストレッチ及びPNFに代表される徒手抵抗を用いたストレッチ法の意味と効果を理解し、安全性の高い指導法を習得する。	1 前	20	1	0			0		0		
31	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 I	スポーツパフォーマンス向上を目的としス ビードトレーニングの理論及び技術を習得 する。	1 前	35	1			0	Δ	0	0		
32	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 II	爆発的パワー獲得のためにプライオメトリ クスの安全で効果的なトレーニングの実施 方法、プログラミング法を学ぶ。あわせて 競技スポーツとしてのフットサル、パドミントンの実 技を行う。	1 後	70	2			0	Δ	0	0		
33	0	スポーツアイ シング	コンディショニング、応急処置、リハビリテーションの各分野において活用されているアイシングの理論と実際を講義、演習を通して習得する。	1 前	20	1		0		0		0		
34	0	スポーツテー ピング I	テーピング知識と技術を向上させることを 目的とする。ホワイトテープ、伸縮テー ブ、キネシオテープ等を目的別、部位別で 適切に選択、処置できるようにする。	1後	20	1		0		0		0		
35	0	ダイビングラ イセンス講座	オープンウォーターダイバーライセンス取得を目指し、潜水の理論と潜水の生理、機材の使用法、圧平衡、海洋環境等を学ぶ。	1 前	20	1		0		0			0	
36	0	パーソナルト レーナー演習 I	ッか、や有酸素性持久カトレーニングに対する 身体の適応、栄養、心理を総合的に学ぶ。	1 前	60	3		0		0		0		
37	0	パーソナルト レーナー演習 II	超、 および特定のグライアンドに対するドレーニング指導法を学ぶ。		60	3		0		0		0		
38	0	プログラムデ ザイン	レジスタンストレーニング、有酸素性持久 カトレーニング、プライオメトリックおよ びスピードトレーニングのプログラム作成 法を学ぶ。	1 後	40	2		0		0		0		
39	0	補強運動の理 論	レジスタンストレーニングの分類とその特 徴を踏まえ、代表的なレジスタンストレー ニングの実施方法、トレーニングプログラ ム作成の基礎を学ぶ。	1 前	20	1	0			0		0		
40	0	アウトドアス ポーツ演習	㈱PADDLER JAPANとの連携のもと、スタンドアップパドル(SUP)やアウトリガーカヌーの実習を行う。	2 前	20	1			0		0		0	0
41	0	運動指導の心 理学的基礎	生活習慣病予防のための運動習慣の確立、 競技力向上等、運動者の目的別に適切な動 機付けの方法を理解させる。又、競技者向 けのメンタルトレーニングプログラムの作 成を行う。	4	20	1	0			0		0		
42	0	企業実務演習	キッズスポーツスクール運営企業やヨガス タジオ、フィットネスクラブ運営企業との 連携で学んだことを応用し、指導に活用で きるようにする。		40	2		0		0			0	0
43	0	企業実務演習 IV	キッズスポーツスクール運営企業やヨガス タジオ、フィットネスクラブ運営企業との 連携で学んだことを応用し、指導者のリー ダー的な立場で活用できるようにする。	2 後	20	1		0		0			0	0
44	0	キャンプ実習 II	キャンプ実習を通して、野外活動の直接体 験の不足部分を体験するとともに集団行動 でより良い人間関係を構築する。	2 前	35	1			0		0	0		
45	0	健康運動演習	健康体力作り事業財団認定の健康運動実践 指導者の資格取得を目標とし、下記全分野 の問題演習を行い、理解を深める。	2 前	80	4		0		0		0		
46	0	健康づくりと 運動プログラ ム	健康づくりを目的とする運動プログラム処 方上の原則を種類、強度、時間、頻度の観 点から理解する。特に有酸素運動の重要性 を理解し有効な運動プログラムを作成でき るようにする。		20	1	0			0		0		
47	0	指導法	受講者の年齢、体カレベル 設定目標に合わせた運動プログラムを作成し、実際に指導を行う。さらに施設の運営管理法やリスクマネジメントに対する理解を深める。	2 後	80	4		0		Δ	0	0		
48	0	水泳・水中運 動の指導 I	受講者の年齢、休力レベルに合わせた水 泳・水中運動プログラムを作成し、指導を 行う。ウォーミングアップ、筋コンディ ショニング、クロール、背泳の適切な指導 法を学習する。	前	20	1		0			0	0		
49	0	水泳・水中運 動の指導 II	17)。 ボーツィー・イング、 ボーレンスタンス運動、水泳はバタフライ、平泳ぎの指導法を学習する。	2 後	20	1		0			0	0		
50	0	スポーツ・コ ンディショニ ンク [*] 実習皿	か+シグアップ、ケーリングダウン、プライオメトリックトレーニン グ、スピードトレーニングのプログラムを組み、実 際に指導できるようにする。また、競技ス ポーツとしてソフトボール、卓球の実習を 行う。	2 前	70	2			0	Δ	0	0		
51	0	スポーツテー ピング II	キネシオロジーテープの特徴である接着、 被覆、伸縮を理解し、目的別、部位別、症 状別のキネシオロジーテーピング法を学 ぶ。	2 前	20	1		0		0		0		
52	0	スポーツマッサージ	を目的とした各種マッサージ技術の演習を 行うと共に生理学的理論も身に付ける。		20	1		0		0		0		
53	0	体力測定と評 価	新体カテストに準じ正しく身体能力の測定、評価できるようにする。体組成の測定を皮下脂肪厚計、BIA法等、機器を用いて行えるようにする。	2 前	20	1	0			0		0		

54	0		トレーニング 実習Ⅲ	体力測定の結果分析、評価を元にトレーニングプログラム作成法を確立する。尚、^^> 方、なクワナードッドリフトに関しては1RM挙 上値の更新を目指し、パワーエクササイズにも挑戦する。	2 前	35	1	0	0		0		
55	0		トレーニング 実習IV	習得した各種トレーニング法を元に第3者 に対して対象別、目的別プログラムを第三 者へ提供、指導する。指導前のかかせか、が が ラムの提供までを実体験する。また、各種 日においては最大学上値の更新を目指す。	2 後	35	1	0	0		0		
56	0		トレーニング 実習IV	習得した各種トレーニング法を元に第3者 に対して対象別、目的別プログラムを第三 者へ提供、指導する。指導前のかか切りが、フ が ラムの提供までを実体験する。また、各種 日においては最大学上値の更新を目指す。	2 後	35	1	0	0		0		
		合	<u>#</u>	56	科	III.		92	単位	立 (.	単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	-
卒業要件: 成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 学科として履修科目が決定している。	1 学期の授業期間	20 週

[|] **園佐方法:** 学科として履修科目が決定している。 | 1 ナ州シバスボアバル | (留意事項) | 1 ・ 中州シバスボアバル | (留意事項) | 1 ・ 中央 | 1 ・

職業実践専門課程等の基本情報について

専門学校日本鉄道		設置認可	年月日	校長名		100 0505	所在地		
ツビジネスカレッ		平成9年1	0月1日	吉野 充和		130-8565 東京都墨田区太平2-	3-2		
設置者名		設立認可	年月日	代表者名		03-3624-5444	所在地		
学校法人立志	志舎	平成10年1	0月30日	塚原 一項		130-8565 東京都墨田区錦糸1-	2-1		
分野		認定課程名		認定学科名		03-3624-5441 門士認定年度	高度専門士認定	2年度 職業実践	専門課程認定年度
文化·教養		上教養専門課程	7	スポーツ字科 Jート公務員コー	-ス 平原	12(2000)年度	-		26(2014)年度
学科の目的	教育基本が	法および学校教育				-般教養に関する正しい	知識を身につけ、日本	X経済の発展に貢献で	きる人材の育成を目
学科の特徴(主な 教育内容、取得可 能な資格 等)	健康運動	実践指導者 NSC	Aパーソナルトレ	·一ナー 日本漢 ⁵	字能力検定 ビジネ	ス能力検定ジョブパス	マイクロソフトオフィス	スペシャリスト等	
修業年限	昼夜	全課程の修了に	必要な総授業時 単位数	数又は総	講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いる かに記入	, ,,,	単位時間単位	600 単位時間 一 単位	1,100 単位時間 一 単位	875 単位時間 一 単位	単位時間単位	単位時間単位
生徒総定員		実員(A) 留営	学生数(生徒実員の		学生割合(B/A)	中退率	+12	+44	+12
120 人	5	i	0	,	0 %	2 %			
120 71	■卒業者	数 (C)	:	4	<u> </u>	2			
	■就職希	望者数 (D)	:	4	Ž.				
		職者数(F)	:	4	<u> </u>				
	■就職率	E (E/D)	****	100	%				
	■就職者	に占める地元就職	(者の割合 (F/E)	100	%				
	■卒業者	に占める就職者の	割合(E/C)						
±+ 100 Mr. O. 11 V.	■進学者	数		0	<u>%</u> 人				
就職等の状況	■その他								
	(令和		業者に関する令和	和7年5月1日時点の	の情報)				
		職先、業界等							
	(令和6年度		豆 叫致宁 味	L白海隊					
	果泉府防	i庁、神奈川県警察	录、刑伤目、隆-	上日 闱隊					
第三者による		評価機関等から な、例えば以下につい				無			
第二句による 学校評価		25 Mr. CT 44				評価	五結果を掲載した		
		評価団体: -		受	審年月: 一		-ムページURL	_	
当該学科の									
ホームページ URL	https://w	ww.nihonschool2	1.ac.jp/						
	(A · 畄右	立時間に トス質定)							
	(A:単位	立時間による算定)						2.575. 磁冲吐用	
	(A:単位	総授業時数	受体し 油棒 1 +-	中轻、中观、中性	サクロ 参吐粉			2,575 単位時間	
	(A:単位	総授業時数 うち企		実験・実習・実	技の授業時数			105 単位時間	
	(A:単位	総授業時数 うち企 うち企	業等と連携した	実験・実習・実装 演習の授業時数	技の授業時数			105 単位時間 200 単位時間	
	(A:単位	総授業時数 うち企 うち企	業等と連携した 修授業時数	演習の授業時数				105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間	
	(A:単位	総授業時数 うち企 うち企	業等と連携した 修授業時数 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の	の実験・実習・実技	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間	
	(A:単位	総授業時数 うち企 うち企 うち必	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の	の実験・実習・実技 の演習の授業時数	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間	
企業等と連携した		総授業時数 うち企 うち企 うち必	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の	の実験・実習・実技	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間	
企業等と連携した 実習等の実施状力 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の	の実験・実習・実技 の演習の授業時数	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間	
実習等の実施状況		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち 立数による算定)	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の	の実験・実習・実技 の演習の授業時数	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企うち企うち必 (うちかな) (うちがないよる算定) 総単位数	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携し	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ、	の実験・実習・実技 の演習の授業時数 ップの授業時数)	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 40 単位時間 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち必 (うち 立数による算定) 総単位数 うち企	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携し	演習の授業時数 と連携した必修。 と連携した必修。 たインターンシ・ 実験・実習・実	の実験・実習・実技 の演習の授業時数 ップの授業時数)	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち 立数による算定) 総単位数 うち企 うち企 うち必	業等と連携した 業等と連携した 業等と連携した 業等と連携した	演習の授業時数 と連携した必修。 と連携した必修。 たインターンシ・ 実験・実習・実	の実験・実習・実技 の演習の授業時数 ップの授業時数)	の授業時数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち 立数による算定) 総単位数 うち企 うち企 うち必	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携し 業等と連携した を単位数	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実 演習の単位数	の実験・実習・実技の演習の授業時数 ップの授業時数)			105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち 立数による算定) 総単位数 うち企 うち企 うち必	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携し 業等と連携した 修単位数 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシン 実験・実習・実計 演習の単位数	の実験・実習・実技の演習の授業時数 ップの授業時数) 対の授業時数) 放の単位数			105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち (うち (うち 総単位数 うち企 うち必 うち必 (うち うち必 うち必 うち必 (うち	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修 と連携した必修 たインターンシ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修 と連携した必修	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数			105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち (うち (うち 総単位数 うち企 うち必 うち必 (うち うち必 うち必 うち必 (うち	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシン 実験・実習・実計 演習の単位数	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数			105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち (うち (うち 総単位数 うち企 うち必 うち必 (うち うち必 うち必 うち必 (うち	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 うち企業等	演習の授業時数 と連携した必修 と連携した必修 たインターンシ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修 と連携した必修	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数			105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち企 うち必 (うち (うち (うち 総単位数 うち企 うち必 (うち (うち (うち (うち (うち (うち (うち)	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 うち企業等 を企業等と連携した	演習の授業時数 と連携した必修6 と連携した必修6 たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修6 たインターンシ・	の実験・実習・実技の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技の演習の単位数 ップの単位数)			105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち必 (うち 立数による算定) 総単位数 うち企 うち必 (うち でうちの専修学校の専行 その担当する教育	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 と連携した 修単位数 うち企業等 をよ連携した を単位数 うち企業等 と連携した	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該 たたりを	の実験・実習・実技の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技の演習の単位数) おいて 専門課 (事体等	の単位数	#16)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 -	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うちを必 うちを必 (うち (うちを必 (うちをを (うちを) (うちを)	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 と連携した 修単位数 うち企業等 をよ連携した を単位数 うち企業等 と連携した	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該 たたりを	の実験・実習・実技の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技の演習の単位数) おいて 専門課 (事体等		新号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 0 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うち必 (うち 立数による算定) 総単位数 うち企 うち必 (うち でうちの専修学校の専行 その担当する教育	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 と連携した 修単位数 うち企業等 をよ連携した を単位数 うち企業等 と連携した	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該 たたりを	の実験・実習・実技の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技の演習の単位数) おいて 専門課 (事体等	の単位数	前号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 -	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 うち企 うちを必 うちを必 (うち (うちを必 (うちをを (うちを) (うちを)	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等と連携した 修単位数 うち企業等 企業等とと連携した 修単位数 うち企業等 で企業等と連携した が り、フロット では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該 たたりを	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ブの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数) ガの単位数) おいて 専門課 して六	の単位数		105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 -	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	総授業時数 うち企 うち企 うち企 うち企 うちを うちを うちを うちを うちを うちを うちを うちを	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 業等と連携した 修単位数 うち企業等 企業等と連携した 修単位数 うち企業等 企業等と連携した で事に従事した者 対策をできる。	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該 たたりを	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数 ップの単位数) おいて専門課 して六 (専修学	の単位数 の単位数 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	第2号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位 2 人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 うち企 うちを うちを必 うちを必 (うち (うち な数による算定) 総単位数 うちを うちを うちを必 うちを必 うちを必 うちを必 うちを必 (うち でうちを必 (うち でうちを必 できる限を当 年の以上とと できるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 参手を連携した 参手を連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を表する。 一門課程を修了した者 有する者等 等経験者	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該 たたりを	の実験・実習・実技 の演習の授業時数 ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数) おいて 専門課 して六 (専修学	の単位数 - 校設置基準第41条第1項第 - 校設置基準第41条第1項第 - 校設置基準第41条第1項第	第2号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 -	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(B:単位	総授業時数 うち企 うちを必 うちを必 (うちをの (うちを必 (うちをを) (うちをを) (うちを) (業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 参手を連携した 参手を連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を表する。 一門課程を修了した者 有する者等 等経験者	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数) おいて課して六 (専修学 (専修学	の単位数 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3	第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位 -	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 うち企 うちを必 うちを必 (うちを) (((((((((((((業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 参手を連携した 参手を連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を表する。 一門課程を修了した者 有する者等 等経験者	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数) おいて課して六 (専修学 (専修学	の単位数 - 校設置基準第41条第1項第 - 校設置基準第41条第1項第 - 校設置基準第41条第1項第	第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 うち企 うちを必 うちを必 (うちをの (うちを必 (うちをを) (うちをを) (うちを) (業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 参手を連携した 参手を連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を表する。 一門課程を修了した者 有する者等 等経験者	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数) おいて課して六 (専修学 (専修学	の単位数 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3	第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位 -	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 うち企 うちを必 うちを必 (うちを) (((((((((((((業等と連携した 修授業時数 うち企業等 うち企業等 企業等と連携した 参手を連携した 参手を連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を単位数 うち企業等 企業等と連携した を表する。 一門課程を修了した者 有する者等 等経験者	演習の授業時数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ 実験・実習・実計 演習の単位数 と連携した必修の と連携した必修の たインターンシ・ た後、学校等に であって、当該	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) ップの授業時数) 技の単位数 の実験・実習・実技 の演習の単位数) おいて課して六 (専修学 (専修学	の単位数 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3	第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 企業等と連携し ま等と連携した を単位数 うち企業等と連携した を単位数 うち企連携した。 を単位数 うち企連携した。 を単位数 うち企連携した。 を単位数 うちと連携した。 を単位数 うちと連携した。 を ま等と連携した。 を ま等と連携した。 を まるを を しまで を しまで を しまで も に りまるを を しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も も も も も も も も も も も も も も も も も も も	演習の授業時数 と連携した必修 と連携した必修 たインターンシ 実験・実習・実 演習の単位数 と連携した必修 と連携した必修 たインターンシ た後、学校等に たインターンシ た後、学校等に がある たりの間に との たりの たりの たりの にの	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) 対して 専門課 して 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、	の単位数 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3	第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位 の 単位 の	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(B:単位	総授業時数 うち企 うちか うちか うちか うちか (うち 変数による うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか うちか	業等と連携した 修授業時数 うち企業等 企業等と連携し ま等と連携した を単位数 うち企業等と連携した を単位数 うち企連携した。 を単位数 うち企連携した。 を単位数 うち企連携した。 を単位数 うちと連携した。 を単位数 うちと連携した。 を ま等と連携した。 を ま等と連携した。 を まるを を しまで を しまで を しまで も に りまるを を しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も しまで も も も も も も も も も も も も も も も も も も も	演習の授業時数 と連携した必修 と連携した必修 たインターンシ 実験・実習・実 演習の単位数 と連携した必修 と連携した必修 たインターンシ た後、学校等に たインターンシ た後、学校等に がある たりの間に との たりの たりの たりの にの	の実験・実習・実技 の演習の授業時数) 対して 専門課 して 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、 ・ 、	の単位数 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3 - 校設置基準第41条第1項3	第2号) 第3号) 第4号)	105 単位時間 200 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 80 単位時間 40 単位時間 40 単位時間 40 単位 一単位 一単位 一単位 一単位 一単位	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

企業・業界団体等との連携により、職務等の遂行に必要となる最新の知識・技術・技能の修得のため、トレーナー業界、スポーツジム、スポーツ用品取扱店など、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび現状のスポーツ 関連業界に即した実習を含め授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- 1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。教育課程編成委員会は 業界関係者、有識者および学園職員で構成する。
- 2. カリキュラム作成委員会は「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員 会は関連する学校・関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
- 3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
- 4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。
- 5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
- 6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
- 7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の提言を十分に活かしカリキュラム改善等の教育課程の作成を定期 的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年2月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
包國 友幸 氏		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	1
樋口 修哉 氏		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	3
吉野 充利		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_
桐原 彰久		令和6年4月1日~令和7年3月 31日(1年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、1月)

(開催日時(実績))

第23回 令和6年9月26日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分) 第24回 令和7年1月29日 10:00~12:00(うち学園全体会10分、日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 分科会20分)

第25回 令和7年9月30日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- 1. 「機能活性プログラムの実施について」
- ・今年も機能活性プログラムの特別授業を1年生1回2年生3回の合計120分×4回の授業を実施することを検討する。
- ・実施時期は1年生が2026年1月以降に1回、2年生が11月初旬から12月中旬に計3回の実施で検討する
- ・日本ストレッチング協会発行の「スポーツストレッチング」を新規テキストとして導入することを検討する。
- 2. 「学内施設(スタジオトレーニングジム)を使った幼児向けスポーツスクールの集客について
- 子どもスポーツ専攻の学生が指導者として学べる学内キッズスクールの運営を引き続き連携して進めていく。
- ・集客から指導まで㈱biimaと連携しながら進めていく。SNSでの発信についても助言をもらいながら進める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ関連の多様な企業、団体と連携し、現場で現役として活躍する講師による授業の受講やスポーツイベントの運営を学ぶ。連携授業を通して、技術・知識の向上を図るとともに「プロの技術」「実際の仕事」に触れることで学生自身の職業観を確立し、職業選択の結びつけることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

Bリーグ所属「サンロッカーズ」との連携実習では、担当者による事前講習会を経て公式戦運営実習を複数回実施。会場設営、警備、物販、試合運営等を担当者の指導のもとで実践する。

日本ストレッチング協会との連携授業では「機能活性ストレッチ」の演習、実習を受講。徒手抵抗による動きづくりなど高度な手技を学ぶ。連携授業においては受講後学内での成果をディスカッションしレポートを提出、評価とフィードバックを受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
		(株)サンロッカーズ
1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	セカンドフィットネススタジオに所属する加圧トレーナーの指導のもと加圧トレーニングの理論を学ぶとともにと実習を行う。通常のレジスタンストレーニングとの効果の違いを体感する。	セカンドフィットネススタジオ
1.【校内】企業等から の講師が全ての授業 を主担当	日本ストレッチング協会講師のもと「機能活性プログラム」の理論を学ぶとともに実習を行い、ストレッチやトレーニングとは異なる人間が持っている能力を活性化する手技を学ぶ。	特定非営利法人 日本ストレッチング協会
	企業連携の方法 3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業	Bリーグ所属「サンロッカーズ渋谷」の公式戦において、会場設営、進行補助、グッズ販売、警備、誘導等プロスポーツイベントの運営を実際に学ぶ。セカンドフィットネススタジオに所属する加圧トレーナーの指導のもとともにと実習を行う。通常のレジスタンストレーニングとの効果の違いを体感する。 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

スポーツ業界においては常に新しいトレーニング方法やトレーニングギアが開発されており、スポーツ用品の販売においても新製品が速いスピードで市場に出回るため、スポーツ学科の教員においても最新の知識を身につける必要があり、そのためには、各企業、団体等の講習会等に教員が定期的に参加する必要があると考える。したがって、教員研修規定に従い、授業や学生に対する指導上の知識等の修得および授業や学生に対する指導力等の修得・向上のための研修等を定期的に行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「健康運動実践指導者主任教員研修」 連携企業等: 健康体力づくり事業財団

期間: 令和7年3月13日(木) 対象:スポーツ学科教員

内容 1. 日本人の食事摂取基準について

2. 令和6年度指導実技試験評価の総括

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「ハラスメント防止、不正防止」 連携企業等: 東京都人権啓発センター 竹内良

期間: 令和7年2月21日(水) 対象: スポーツ学科教員

内容障害のある人への差別と対応、およびLGBTQについて

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ダンスパフォーマンス向上のためのトレーニング」 連携企業等: RSC MASAMI STUDIO 君原正美

期間: 令和8年3月予定 対象: スポーツ学科教員

内容 ダンスジャンルの違い、ダンサーのフィジカルトレーニング、ダンサー向けのコンディショニング法

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「人権研修」 連携企業等: 東京都人権啓発センター

期間: 令和8年2月実施予定 対象:スポーツ学科教員

内容 人権問題の正しい理解と認識

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるかを検証するため学校関係者評価を原則として年1回実施し、その結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 ガイドラインの評価項目 学校が設定する評価項目 ・理念・目的・育成人材像は、定められているか 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合して (1)教育理念・目標 いるか ・理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか ・社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか ・理念に沿った運営方針を定めているか 理念等を達成するための事業計画を定めているか 設置法人は組織運営を適切に行っているか (2)学校運営 学校運営のための組織を整備しているか 人事・給与に関する制度を整備しているか 意思決定システムを整備しているか 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか ・理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。 ・教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか ・教育課程について、外部の意見を反映しているか キャリア教育を実施しているか ・授業評価を実施しているか ・成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか (3)教育活動 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。 資格・免許取得の指導体制はあるか 資格・要件を備えた教員を確保しているか ・教員の資質向上への取組みを行っているか 教員の組織体制を整備しているか ・就職率の向上が図られているか (4)学修成果 ・資格・免許取得率の向上が図られているか ・卒業生の社会的評価を把握しているか 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ・退学率の低減が図られているか ・学生相談に関する体制を整備しているか ・留学生に対する相談体制を整備しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ・学生の健康管理を行う体制を整備しているか (5)学生支援 ・学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 課外活動に対する支援体制を整備しているか 保護者との連携体制を構築しているか 卒業生への支援体制を整備しているか ・産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んで いるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。 ・教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備して いるか ・学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備している (6)教育環境 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。

(7)学生の受入れ募集	・高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか ・学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか ・入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか ・入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか ・経費内容に対応し、学納金を算定しているか ・入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか
(8)財務	 ・学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか ・学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか ・教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか ・予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか ・私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ・私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9)法令等の遵守	・法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか ・学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ・自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ・自己評価結果を公表しているか ・学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか ・学校関係者評価結果を公表しているか ・教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・国際交流に取組んでいるか ・学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
[(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

基準1について

- (1)親が学校にはなかなか行けないのでその都度催しなどのお知らせを頂けると安心して通わせることができると思う。また、昨年の意見を活用していただけている環境は素晴らしい。
- (2)本科卒として経験した立場として、「ゼミ学習」の経験が今の職場で活かされている。ゼミ学習ではいろんな人と話す機会があったので自分の考えを伝えること、相手の考えを聞くことというのを同時にできたので、コミュニケーション力を身に着けることができた。お客様への応対についても複数の答えがあるため社内で会議にて検討する際にも活かされていると感じている。

基準2について

- (1)ここ数年、コロナ禍を経て様々な情報の取扱いについてシビアになってきた。管理者のみ限定で見られるシステムもあるが、管理者じゃない人が管理する個人情報もある。管理者以外の人が管理するときに権限がなくても管理できるようなリストを作るようにしている。学校の場合、特に学生に関する情報、企業に関する情報など取扱いに注意をしなければならない情報が多くなるので今後も取り扱いには注意をしていただきたい。
- (2)データ送信を行う場合、無料のものは使ってはいけないことになっている。また個人情報の研修を全社員が毎年受けている。アレルギーなどの個人情報のやりとりが多いので慎重に扱うようにしている。セキュリティに関する研修などを実施しても良いのではないか。

基準3について

(1)社会に役立つ人材の育成として、学内だけでやっていては社会から取り残されてしまうため企業と連携することが非常

(2)当社では営業利益を上げるための一般社員向けに営業研修、若手向けには接客のための営業基礎研修、管理職向けにはマネジメント研修やハラスメント研修などニーズに合わせて選べる形になっている。1年目、3年目、5年目まではカリキュラムが組まれ、新任管理職は勤怠やハラスメントの研修、長年管理職をされている方は任意で様々な研修から選べるようになっている。役職や勤務年数に応じた研修を導入しても良いかと思う。

基準4について

(1)鉄道・トラベル学科

検定実績・就職実績が高く素晴らしく。ゼミ学習の成果だと思います。また先生方の親切・丁寧な指導の賜物だと感じました。引き続き継続してください。

(2)スポーツ学科

先生方の日々の努力がすばらしいと感じた。学生に意識を高く持たせることの大変さ、机上で勉強しているだけでなく現場でモチベーションを上げることの大変さが伝わった。今後も楽しみにしている。

(3)ビジネス学科

最後の年でJR東海に就職できたり他にも多くのところに就職できたりしているということは、学生の頑張りは当然ですが、先 生方のサポートがしっかりしているからだと思います。本当に素晴らしいです。

基準5について

(1)スクールカウンセラーを導入されたということですが、学生目線にたった素晴らしい導入だと思います。

高校生はまだ未熟で担任の先生へ相談はしにくいこともある。本学ではスクールカウンセラーを導入後して5年が経つ。毎回予約でいっぱいになっている。専門学校進学後は悩みも変わってくるとは思うが安心できる学校として選んでもらえると思う。高校では保護者がスクールカウンセラーへ相談するというケースも出てきている。継続してください。

(2)学生の経済的側面に対する支援体制が整備されている点は保護者の立場としてありがたい。他校の推薦などでは入学後に競技を継続してケガなどで続けられず退学に繋がるケースもあると思うが、高校での頑張りを評価するというのは良いと思う。

基準6について

(1)高校の修学旅行は生徒にとって一番の思い出になる。2年次の10月に実施。場所より中身に比重が置かれている。沖縄とベトナムの2か所からの選択制で生徒が選ぶ。希望者人数の関係で全員沖縄になった。本来でしたら海外の文化など経験して視野を広げてもらいたいと思っていたが実現できなかった。保護者にとっても海外は高額になるため保護者の負担を考慮することも重要。本校の場合、1年次から月1~2万円前後を任意で積み立てをしている。今後も継続をしてほしい。

基準7について

(1)SUKI-1グランプリの開催について

入学してくる生徒たちはやりたいことが明確ではなく漠然としている生徒も多い。オープンキャンパスやCMなどをきっかけにSUKI-1を知ってもらって興味を持っていただけたり、不登校の生徒の気持ちの切り替えのきっかけに繋がる。社会貢献という教育的な面も大きいのではないかと思う。引き続き継続してください。

献という教育的な面も大きいのではないかと思う。引き続き継続してください。 (2)様々な情報提供という観点からはホームページがとても見やすいですし、目を引くものが多い。知りたい情報が探しやすいと感じた。インスタでは運転士用のシミュレータをやっている点が見られるのも面白かった。引き続き発信して欲しいと思いました。

基準8についての自己評価は委員の方々から「適正」であると評価されました

基準9について

金年でにより、こ (1)本校でも自己評価を実施しこれをホームページに公開しているが、これを実施し、公開している。公開することで第3者 の目がある点は抑止力になり、進学先として安心できる。

基準10について

(1) 当社でも今年2月に職場見学会を開催した。社員の家族が対象でたくさんのお子さんが来た。やはりシミュレータが大人気だった。こういった施設の開放やイベントは学生にとって貴重な経験になったと思う。継続してほしい。

(2)SUKI-1の大会では高校生でも意識が高くレベルが高いと感じた。これからたくさん周知されていくと思う。私たちも周知する仕事が多いが、地方の新聞社やメディアさんヘアピール。その記事を持って高校さんヘアピールするのが良いと思う。高校生は全然テレビを見ないらしく一番有効なのはSNSだと思う。高校生にはTickTockの広報は効果的で良いのではないか?

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
富永 高広氏	株式会社日本旅行 東京教育旅行営業部 部 長	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者 高校関係
林 哲治氏	立志舎高等学校 教頭	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	者
平澤 精一氏	有限会社井荻スポーツ社 代表取締役	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
藤代 真弘氏	東海旅客鉄道株式会社 新幹線鉄道事業本部 東京第二運輸所 指導車掌	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	業界関係 者
丸茂 茜 氏	ヒロセ電機株式会社 製作本部長室	令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

))

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他(URL: https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 公表時期: 令和7年6月20日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、 本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(2) 専門学校にあげる情報提供等への取組に関するよう	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・目的、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在学学生数・授業計画表(シラバス)・進級・卒業の要件等・取得資格、検定試験合格等の実績・卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	・教職員数 ・教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況・実習・実技等の取組状況・就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況・課外活動
(6)学生の生活支援	·学生相談室、就職相談室
(7)学生納付金·修学支援	・学生納付金 ・活用できる経済的支援措置
(8)学校の財務	・事業報告書、計算書類、監査報告、財産目録
(9)学校評価	・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ
((11)その他 ※(10)みび(11)については任音記載	•学則

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・ その他(

https://all-japan.ac.jp/disclosure/ 令和7年7月31日

URL: 公表時期:

授業科目等の概要

			教養	専門課程 スポ	ペーツ学科アスリート公務員コース)				42	2 450 -	H2+	18	RC.	#4		
		分類				配当	授	単	ts	業ス	実	场	所	教	貝	企業
	必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	年次	業	· 位	講	演	験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	校	校	専	兼	等と
	修	必修	選択			学	時	数	義	習	技実習	内	外	任	任	の連
						期	数				実					携
1	0			一般教養講座 I	非言語分野である一般的な計算(文章 題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力および言語分野、時事問題を 理解する。	1 前	40	2	0			0		0		
2	0			一般教養講座 Ⅱ	非言語分野である一般的な計算(文章題)・図形・空間把握・判断推理を学び、 数的処理能力を向上させ、言語分野、時事 問題の理解を深める。	1後	60	3	0			0		0		
3		0		表計算ソフト 演習	表計算ソフト「Excel」を使用し入 カ、修正などの基本的操作から、関数の使 い方までを学ぶ。	2 後	40	2		0		0		0		
4		0		プレゼンテー ションソフト 演習	パワーポイントを利用してプレゼンテー ションの企画、作成、発表までを学ぶ	2 後	40	2		0		0		0		
5	0			企業連携演習 I	スポーツ分野の様々な企業や現場で実際に 活躍している方の講演や実習を特別授業と して受講し、レポートを提出する。	1後	40	2		0		Δ	0		0	0
6	0			トレーニング 実習 I	体力測定の結果分析、評価を元にフリー ウェイト、各種マシン、自重負荷を用い、 正しいレジスタンストレーニング法を学 び、実践する。	1 前	70	2			0	0		0		
7	0			トレーニング 実習 II	体力測定の結果分析、評価を元にフリー ウェイト、各種マシン、自重負荷、パラン スポール、TRX等を用い、目的に合わせたト レーニング法を学び実践する。	1後	70	2			0	0		0		
8	0			企業連携演習 II	スポーツ関連産業やスポーツイベント運営 企業の社員指導の下、現場での仕事を主体 的に体験し、レポートを作成、提出する。	2 前	40	2		0		Δ	0		0	0
9	0			卒業研究	専門学校での学習の集大成として、授業科目・就職先の業界研究など学生がテーマを 考えて論文を作成する。	2 後	##	8		0		0		0		
10		0		インターン シップ	各講義、及び実習で習得した知識をフィットネス企業、トレーナー企業、スポーツ系 販売企業内での就業体験の場で実践することを目的とする。	1 前	40	2		0			0	0		
11		0		運動障害の予 防	運動に伴う内科的、整形外科的障害につい て理解を深める。捻挫、疲労骨折、腰椎分 離症、熱中症や月経異常の要因、予防法を 理解する。傷病者に対する応急処置の実際 を習得させる。	1後	20	1	0			0		0	Δ	
12		0		運動生理学	呼吸循環器、骨格筋、神経と運動との関連 の理解を高める。特に筋収縮様式、エネル ギー供給に関する分野の理解を重視し、エ ネルギー代謝の計算法も学ぶ。	1後	20	1	0			0		0		
13		0		エアロビック 運動の実際 I	エアロビックダンスー連の動作を実習し、 正しいアライメントの習得、心肺持久力、 筋持久力向上を目指す。性別、年齢、体力 差を考慮した安全なブログラムの作成、指 導法を学ぶ。	1 前	35	1			0	0			0	
14		0			エアロビックダンスプログラームの作成を行う。またジョギング・ウォーキングに対って ては実際に歩行、走行を実習、検証することでそれぞれの特性 効果を理解し、健康 づくりのための運動指導に活用できるようにする。	1	35	1			0	0			0	
15		0		エアロビック 運動の理論	有酸素性運動をエネルギー供給機構との関 係から理解する。最大酸素摂取量、無酸素 性作業閾値の推定方法を習得する。		20	1	0			0		0		
16		0		栄養と体重調 節	栄養と健康、スポーツとの関連を理解する。適切な減量を実施するためのエネル ギー消費量の計算法を習得する。また、 財選手対象の栄養摂取法、調理法について 知識を習得する。	1後	20	1	0			0		0	Δ	
17		0		機能的解剖学	骨格筋の分類、構造、特徴と役割を基礎に 人間の代表的な関節(肩関節、脊柱、股関 筋、膝関節、足関節)の構造及び各種運動 時、トレーニング時のパイオメカニクスに ついて理解する。	1 前	20	1	0			0		0		
18		0		キャンプ実習 I	テントの設営方法・撤収方法、野外料理の 方法、ローブワーク、キャンプファイヤー の運営、キャンブ道具の使い方等を学ぶと ともに、集団行動でより良い人間関係の構 築を学ぶ。	1 前	35	1			0		0	0		
19		0		クラブ活動 I	野球、サッカー、パスケットボール、パレーボール、パドミ ントン、テニス、アアリーディンヴから一種目選択 し、競技力向上に努める。春季・夏季大会 を目標に基本的技術、チーム戦術の理解に 努める。	1 前	##	3			0	Δ	0	0		
20		0		クラブ活動Ⅱ	野球、サッカー、パスケットポール、パレーポール、パドミ ントン、テニス、チアリーテ゚ィングの中から一種目選 択し、競技力向上に努める。秋季・冬季大 会での上位入賞を目標とする。	1後	##	3			0	Δ	0	0		
21		0		健康管理概論	日本人の疾病傾向の変化、生活習慣病への 理解を高める。それを踏まえ運動が健康づ くりに果たす役割を認識し、有酸素運動を 中心とした運動プログラム作成に生かす。		20	1	0			0		0	Δ	
22		0		公務員基礎講 座 I	公務員試験で出題される「数学分野」の基 本的な問題の解決能力を獲得することを目 的とする。		80	4	0			0		0		
23		0		公務員基礎講 座 Ⅱ	公務員試験で出題される「判断推理」「空間把握」「資料解釈」の基本的な問題の解決能力を獲得することを目的とする。	1 後	80	4	0			0		0		

24	0	水泳·水中運動 I	水による負荷を活かし、水中エアロビクス、補強運動、筋カトレーニングを実習し、その運動強度と効果を理解させる。水泳においてはクロールと背泳の正しい泳法の習得を目指す。	1.	35	1			0		0	0		
25	0	水泳・水中運 動 Ⅱ	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ パタフライの 基本4泳法の習得を第一目標とし、正しい 泳法の理解と適切な指導法を学習する。		35	1			0		0	0		
26	0	ストレッチン グの理論と実際	スタティック、バリスティック、ダイナミックストレッチ及びPNFに代表される徒手抵抗を用いたストレッチ法の意味と効果を理解し、安全性の高い指導法を習得する。		20	1	0			0		0		
27	0	スノーボード 実習	実習を通してスノーボードの技術を身に付け、JSBAの級別テストを取得するとともに、共同生活を通して団体行動を学ぶ。	1 後	35	1			0		0		0	0
28	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 I	スポーツパフォーマンス向上を目的としス ピードトレーニングの理論及び技術を習得 する。	1 前	35	1			0	Δ	0	0		
29	0	スポーツ・コ ンディショニ ング実習 II	爆発的パワー獲得のためにプライオメトリクスの安全で効果的なトレーニングの実施方法、プログラミング法を学ぶ。あわせて 敗肢スポーツとしてのフットサル、パドミントンの実 技を行う。	254	70	2			0	Δ	0	0		
30	0	スポーツアイ シング	コンディショニング、応急処置、リハビリテーションの各分野において活用されているアイシングの理論と実際を講義、演習を通して習得する。	1 前	20	1		0		0		0		
31	0	スポーツテー ピング I	テーピング知識と技術を向上させることを 目的とする。ホワイトテープ、伸縮テー ブ、キネシオテープ等を目的別、部位別で 適切に選択、処置できるようにする。	1後	20	1		0		0		0		
32	0	ダイビングラ イセンス講座	オープンウォーターダイパーライセンス取得を目指し、潜水の理論と潜水の生理、機材の使用法、圧平衡、海洋環境等を学ぶ。		20	1		0		0			0	
33	0	補強運動の理 論	レジスタンストレーニングの分類とその特徴を踏まえ、代表的なレジスタンストレーニングの実施方法、トレーニングプログラム作成の基礎を学ぶ。	1	20	1	0			0		0		
34	0	運動指導の心 理学的基礎	生活習慣病予防のための運動習慣の確立、 競技力向上等、運動者の目的別に適切な動 機付けの方法を理解させる。又、競技者向 けのメンタルトレーニングプログラムの作 成を行う。	2 前	20	1	0			0		0		
35	0	官公庁研究Ⅱ	官公庁職員による業務説明会を通して、公 務員の仕事の概要等を深く理解することを 目標とする。今後希望する公務員像を明確 に 公務員試験に向けて考え行動する力を 養う。	5	20	1		0		0			0	
36	0	クラブ活動Ⅲ	選択した各クラブで競技力向上に努める。 又、チームの中心メンバーとしてリーダー の役割を果たせるようにする。集大成として 秋季・冬季大会での上位入賞を目標とす る。	2	70	2			0	Δ	0	0		
37	0	健康運動演習	健康体力作り事業財団認定の健康運動実践 指導者の資格取得を目標とし、下記全分野 の問題演習を行い、理解を深める。		80	4		0		0		0		
38	0	健康づくりと 運動プログラ ム	健康づくりを目的とする運動プログラム処 方上の原則を種類、強度、時間、頻度の観 点から理解する。特に有酸素運動の重要性 を理解し有効な運動プログラムを作成でき るようにする。	2	20	1	0			0		0		
39	0	自然科学概論	数学の基本概念や原理・法則の理解および 事象を数学的に考察し、処理する能力を高 めることを目指す。		40	2	0			0		0		
40	0	自然科学演習	物理的な事物・現象に関する考え方や、地 学的な事物・現象に関する考え方を養い、 物理学および地学の基本概念についての理 解を目指す。	2	40	2		0		0		0		
41	0	指導法	受講者の年齢、体力レベル 設定目標に合わせた運動プログラムを作成し、実際に指導を行う。さらに施設の運営管理法やリスクマネジメントに対する理解を深める。	2 後	80	4		0		0		0		
42	0	社会科学概論	法学および政治分野について、相互関連性 に注目しながら、基本概念についての理解 を目指す。	2 前	40	2	0			0		0		
43	0	社会科学演習	経済分野に関して、経済用語や時事用語に 注目しながら、基本概念についての理解を 目指す。	2 前	60	3		0		0		0		
44	0	就職セミナー I	卒業後の自己の進路を見極めるために、自己分析や希望職種の分析等を行うととも に、各企業に資料請求等を行い、業界およ び各企業の研究をすることを通して、実際 の就職活動の準備を進める。	2	20	1		0		0		0		
45	0	人文科学概論	日本の歴史の展開を世界的視点に立って理解し、日本の文化・芸術および思想等の特色についての理解を目指す。		40	2	0			0		0		
46	0	人文科学演習	現代世界の形成を歴史的過程の観点に立っ て理解し、各国の文化の多様性および複合 性や芸術並びに思想等についての理解を目 指す。	2 前	40	2		0		0		0		
47	0	水泳・水中運 動の指導 I	受講者の年齢、体カレベルに合わせた水 泳・水中運動プログラムを作成し、指導を 行う。水中ウォーキング、水中レジスタン ス運動、水泳はパタフライ、平泳ぎの指導 法を学習する。	154	20	1		0			0	0		
48	0	数的推理	数による推理力・判断力や処理能力及び数 学的な計算力を中心とした数的推理の領域 の基礎力を養うことを目指す。		60	3		0		0		0		
49	0	数的推理演習	数的推理 I を踏まえ数による推理力・判断力や処理能力及び数学的な計算力を中心とした数的推理の領域の基本を養うことを目指す。		##	5		0		0		0		
50	0	スポーツマッ サージ	スポーツマッサージ技術の習得を目的とする。怪我の予防、疲労回復、競技力向上等を目的とした各種マッサージ技術の演習を行うと共に生理学的理論も身に付ける。		20	1		0		0		0		

51	0		体力測定と評 価	新体カテストに準じ正しく身体能力の測定、評価できるようにする。体組成の測定を皮下脂肪厚計、BIA法等、機器を用いて行	2	20	1	0			0		0		
52	0		トレーニング 演習 I	えるようにする。 筋力アップを目標に、正しい器具の使用 法・効果的なエクササイズを学び、実践す る。		20	1		0		0		0		
53	0		トレーニング 実習Ⅲ	電得した各種トレーニング法を元に第3者 に対して対象別、目的別プログラムを第三 者へ提供、指導する。指導前のがか切か、プ の75Aの提供までを実体験する。また、各種 目においては最大学上値の更新を目指す。	2	35	1			0	0		0		
54	0		判断推理	文章・記号・図形等による推理力・判断力 を中心とした判断推理の領域及び平面・立 体図形・軌跡等による視覚能力・想像力を 中心とした空間把握の領域の基礎力を養う ことを目指す。	١,	40	2		0		0		0		
55	0		判断推理演習 I	判断推理 I を踏まえ文章・記号・図形等による推理力・判断力を中心とした判断推理 の領域及び平面・立体図形・軌跡等による 視覚能力・港像力を中心とした空間把握の 領域の基本を養うことを目指す。	2	##	5		0		0		0		
		合	2+	55	- A:	IB		_	_	110	単位	7 (1	単位	時間	f)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	F
卒業要件: 成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: コースとして履修科目が決定している。	1 学期の授業期間	20 週